

# 授業づくりと評価の手引き 【改訂版】

～「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざして～



平成 28 年 1 1 月

山口県教育庁義務教育課

学校 氏名

## はじめに

### ～まだ見ぬ未来を拓くために～

「想定にとらわれることなく対処する。ミスを恐れることなく、最善を尽くす。そして、指示を待たずに、率先して引率者になる。」この言葉は、防災教育の取組を通して生み出された言葉ですが、災害発生時に限らず、現代あるいは将来の社会のあらゆる場面で生きて働く教訓です。

また、文部科学大臣補佐官で慶應義塾大学教授でもある鈴木寛氏は、「これからの社会では、人工知能には解答できない問題と向き合える人材、『創造的で、協働して進める、唯一無二のコト・モノづくりができる人材』を育てることが求められている」と話しています。

未来を予測することは、難しいことです。しかし、私たちは、まだ見ぬ未来を、拓いていかなければなりません。むしろ、未来を拓いていくために、誰かの指示を待つのではなく、自分で最善策を選択し、積極的に実行していくことができるようになりたいと願います。私たちは、自分自身の在り方を見つめ直すとともに、未来の社会を支える子どもたちに本当に必要な資質・能力を育む学校をめざし、その基盤となる授業改善を進めていきたいと思います。

平成 28 年 1 1 月  
山口県教育庁義務教育課

# 目 次

ページ

はじめに	
1 現在と未来に向けて自らの人生を切り拓く子どもたちを求めて	1
2 めざす授業の姿	3
3 授業づくりにおけるPDCAサイクル	4
(1) P: 授業を構想する	5
児童生徒について	
目標について	
教材・題材について	
指導の工夫について	
(2) D: 授業を実践する	13
児童生徒の見取り	
教員の働きかけ	
(3) C: 授業を評価する	15
児童生徒による授業評価	
教職員同士による授業評価	
保護者や地域住民の方々による授業評価	
(4) A: 授業を改善する	18
4 授業改善を進めるための研修体制	20
校内研修	
校種間連携による研修	
キャリアステージを意識した研修	

# 1 現在と未来に向けて自らの人生を切り拓く子どもたちを求めて ～よりよい学校教育を通じて、よりよい社会づくりをめざす～

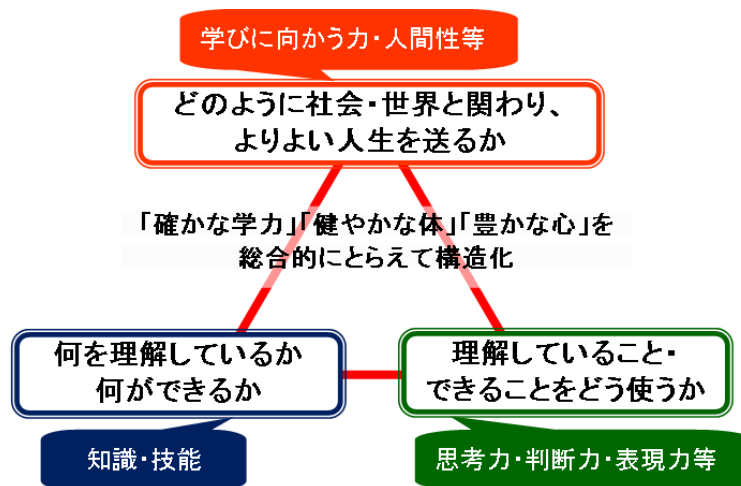
育成すべき資質・能力を明確にし、確実に育むことが求められます



変化が激しく将来の予測が困難な時代にあっても、一人ひとりが自信をもって自分の人生を切り拓き、よりよい社会を創り出していくことができるよう、これからの教育界には、図のような**資質・能力**を児童生徒に育成していくことが求められます。

各学校においては、児童生徒の発達の段階に応じた幼保・小・中・高の縦のつながりと、教科等間の横のつながりの両方を意識した、教育課程の編成や授業改善の取組、学習評価を行うことが求められます。

## 【育成すべき資質・能力の三つの柱】



社会総がかりで子どもたちを見守り、育んでいく気運が大切です



これからの社会では、次のようなことが求められます。

- ① 「よりよい学校教育を通じてよりよい社会づくりをめざす」という目標を社会と共有すること
- ② 児童生徒にどのような資質・能力を育成するのかを教育課程において明確にすること
- ③ 社会と連携・協働しながら実現させていこうとする「社会に開かれた教育課程」の理念を重視すること



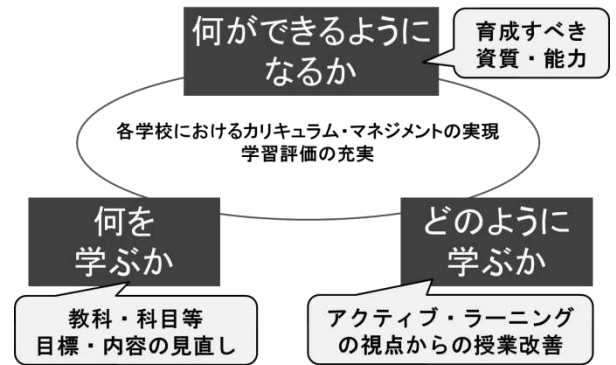
各学校の特色を踏まえた教育課程を、みんなで構築しましょう



児童生徒に求められる資質・能力を育んでいくためには、「何ができるようになるか」「何を学ぶか」「どのように学ぶか」という、図の三つの要素について各学校が組み立て、家庭・地域と連携・協働しながら実施し、目の前の児童生徒の実態を踏まえながら不断の見直しを図ることが求められます。（カリキュラム・マネジメント）

特に、「どのように学ぶか」を追究することが、授業改善の取組の活性化をもたらします。次期学習指導要領には、授業改善の視点として「**主体的・対話的で深い学び**」を実現する**アクティブ・ラーニング**の視点が、明確に位置付けられます。

【教育課程編成において注目すべき要素】



「主体的・対話的で深い学び」の実現の視点から、授業を見直しましょう



現実の社会で起こっている問題の多くは、短時間で容易に解決できるものではありません。問題を自分のこととして受け止め、解決までの困難な道のりを、あきらめることなく、歩み続ける「**主体的な学び**」の姿が求められます。

また、現実の社会で起こっている問題の多くは、自分一人で解決できるものではありません。周囲の人々とコミュニケーションを図りながら、よりよい解決策を見つけ、協働して実行していこうとする「**対話的な学び**」の姿が求められます。

そして、直面する問題に多方面から迫り、試行錯誤を繰り返しながら、問題の本質的な解決を導く可能性がある対策を選択・判断する「**深い学び**」の姿が求められます。

【「主体的・対話的で深い学び」のイメージ（文科省作成資料による）】

【主体的な学び】

学ぶことに興味や関心をもち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「**主体的な学び**」が実現できているか

学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性等の涵養

生きて働く知識・技能の習得

未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等の育成

主体的な学び  
対話的な学び  
深い学び

【対話的な学び】

子ども同士の協働、教員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「**対話的な学び**」が実現できているか

【深い学び】

各教科等で習得した概念や考え方を活用した「**見方・考え方**」を働かせ、問いを見いだし解決したり、自己の考えを形成し表したり、思いを基に構想、創造したりすることに向かう「**深い学び**」が実現できているか

「主体的・対話的で深い学びの実現」をめざす取組、すなわちアクティブ・ラーニングの視点からの授業改善では、本時の学習課題を解決する資質・能力はもちろん、将来の問題解決につながる資質・能力を育成することも意識していく必要があります。

## 2 めざす授業の姿 ～みんなで授業改善を進める雰囲気づくりの基盤になります～

めざす授業の基本的な姿を共有することによって、授業改善が進みます



多くの学校で、一人ひとりの教員の思いや考え方の違いから、それぞれが個別に授業改善を行っているという状況が見られます。授業改善の取組をより効果的なものにするために、まず、めざす授業の姿を共有するなど、組織的に進めましょう。

### 【めざす授業の姿の例】

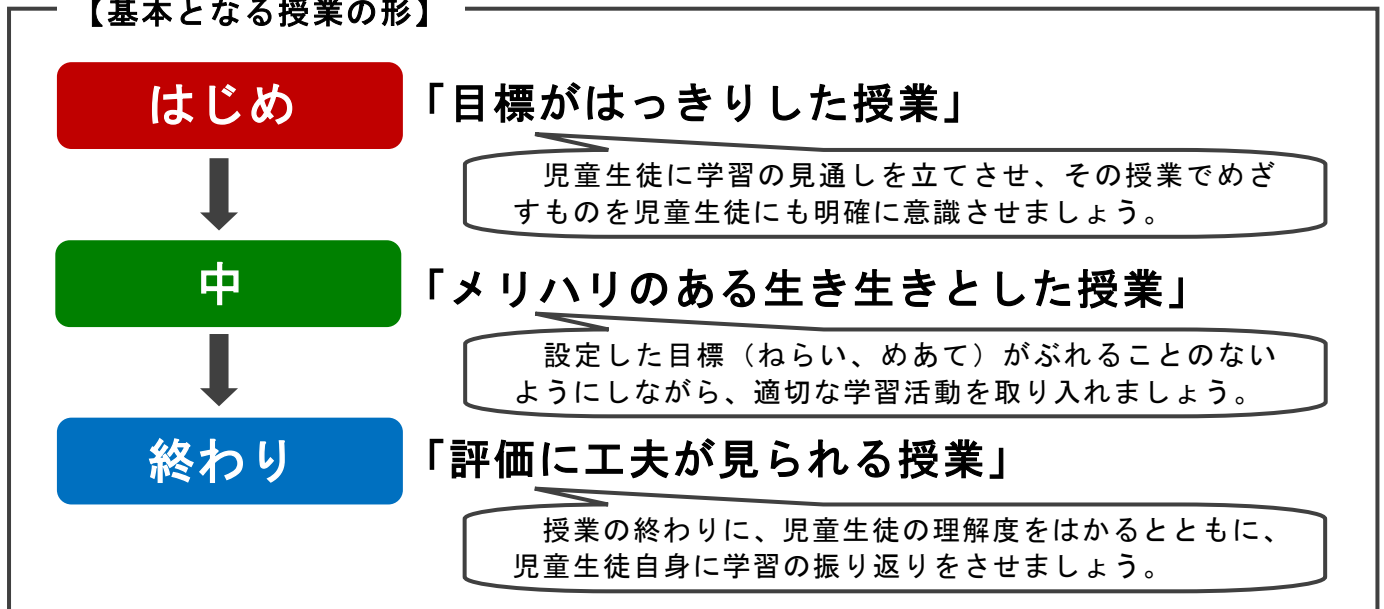
- 「こんな子どもを育てたい」という教員の強い願いがこもった授業
- 明確な目標のもとに組み立てられている授業
- 教員の表情が豊かな授業
- 活動の切り替えがきびきびしている授業
- 児童生徒の中で、思考が深まっている授業
- 必要に応じて、さまざまな学習形態を工夫して取り入れている授業
- 様々な評価方法を取り入れ、多面的に児童生徒を評価している授業
- めあてが達成された授業



など

県教委では、基本となる授業の形を、次のように整理しています。

### 【基本となる授業の形】



全員で共有する部分と、個人でアレンジする部分を見極めながら、普段から互いの授業を気軽に参観したり、日々の授業について職員室で話をしたりすることができる雰囲気づくりを進めて、**児童生徒一人ひとりの学力向上に責任をもって向き合う教員集団**をめざしましょう。

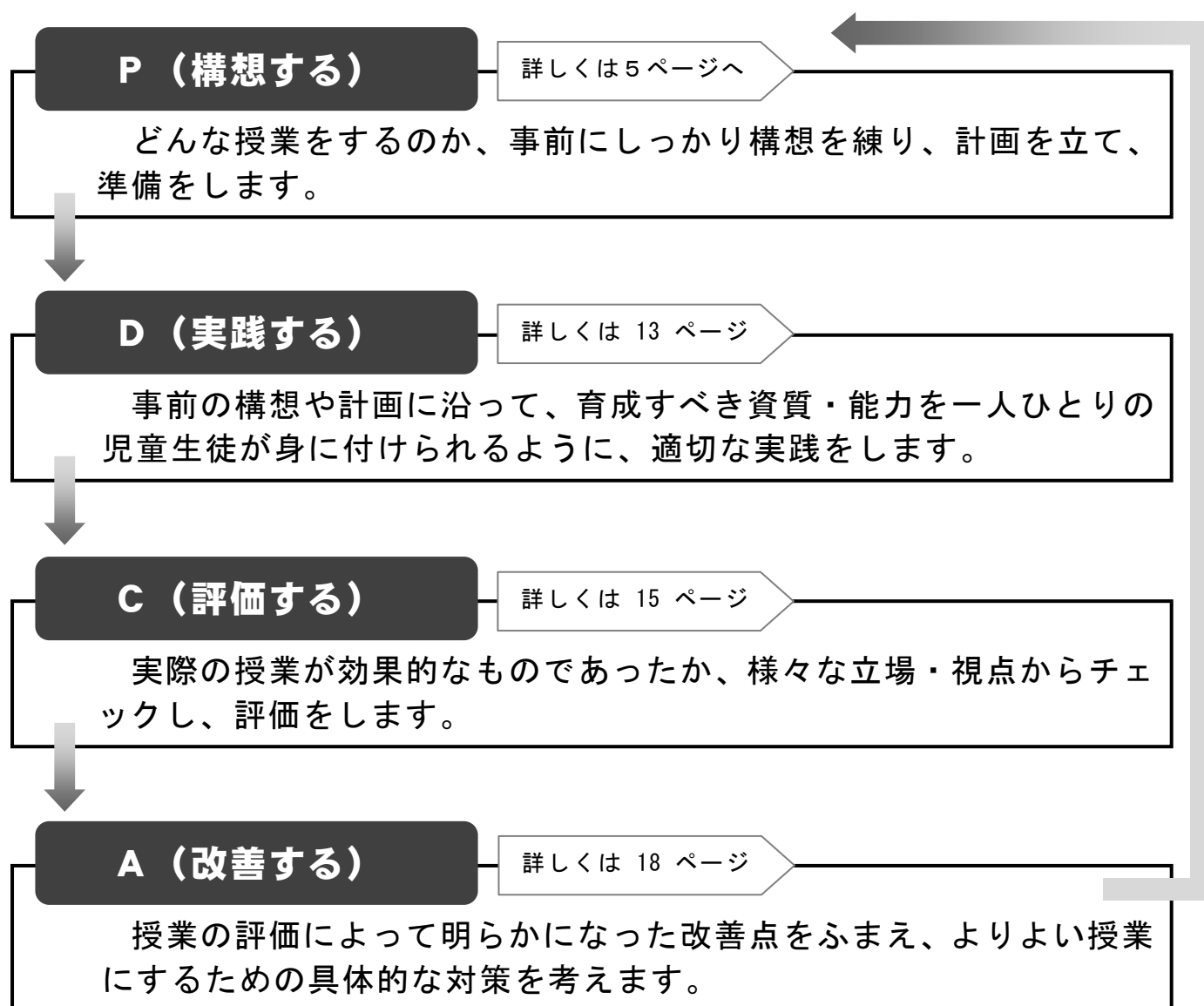
### 3 授業づくりにおけるPDCAサイクル ～よりよい授業を求め続ける教員の姿勢が大切です～

日々の授業改善こそ、児童生徒の学力向上につながります



全ての児童生徒が、1時間1時間の授業を通して、求められる資質・能力を確実に身に付けることができるようにすることが大切です。

授業の主人公は児童生徒ですが、**授業づくりの主人公は教員**です。下のような「**構想(P)**」「**実践(D)**」「**評価(C)**」「**改善(A)**」の営みを繰り返していくことで、全ての児童生徒が求められる資質・能力を確実に身に付けることができるようにする、よりよい授業の実現に向けた取組を充実したものにすることができます。



## (1) 授業を構想する

### P (構想する)

どんな授業をするのか、事前にしっかり構想を練り、計画を立て、準備をします。

授業の前に、まず教員は、授業に対する自分の思いや考えを整理しておきましょう。その際、次の四つの項目に沿って整理しておくといでしょう。

#### 【授業に対する思いを整理する際の四つの項目】

児童生徒について

「目の前の児童生徒は、このような状態にあります。」

目標について

「本単元・授業で、このような姿になってほしいので。」

教材・題材について

「このような価値のある教材・題材を使って。」

指導の工夫について

「このような指導の工夫をします。」

これらの項目に沿って整理した自分の思いや考えをつなげて、授業について語るができるようになります。



### 児童生徒について

**ここがポイント!!**

その授業を行う上で必要と思われる児童生徒の情報の収集・把握を心がけましょう。

授業の主人公である児童生徒の今の姿を把握することは、授業の目標を設定したり、指導の工夫を考えたりする際の手掛かりとなり、よりよい授業づくりにつながります。

教員は、児童生徒の様子をできるだけ的確に把握することができるように、多様な方法で情報の収集に努めましょう。

どんな情報を  
収集すればよいか?

- ・それまでにどのような内容について学習したか
- ・どのような学習内容や活動に興味・関心を示すか
- ・どのような見方や考え方をする傾向があるか
- ・どのようなつまずきをもった児童生徒がいるか など

- ・事前のアンケート調査によって
- ・直接児童生徒を観察することによって
- ・それまでの学習の記録によって など

どうやって  
情報を収集すればよいか?





## 目標について

ここがポイント!!

目標は、期待される児童生徒の具体的な姿で設定するように心がけましょう。

目の前の児童生徒に、その授業を通して、どのような資質・能力を育みたいのかを明確にすることによって、進むべき学びの方向を定めることができ、より分かりやすい授業づくりにつながります。

教員は、学習指導要領の教科等の目標を踏まえながら、単元の目標を設定し、その中の授業の目標を設定していきます。しかし、そこで設定した目標が、児童生徒からあまり離れすぎたものであったり、抽象的なままであったりしてはいけません。教員は、育成すべき資質・能力と児童生徒の現状の間、つまり「少し背伸びして頑張れば、到達することができる」という地点を見極め、児童生徒の具体的な姿をイメージしながら目標を設定することが求められます。

TRY

発達の段階や学習内容、教科等の特性に応じた具体的な目標（めあて、ねらい）の在り方について、研修を行って意見交換をしてみましょう。



## 教材・題材について

ここがポイント!!

授業者が、自分の言葉で教材の価値を語るできるように、綿密な教材分析・解釈を心がけましょう。

教員が、授業で扱う教材・題材について、事前の分析と解釈を行うことで、その教材・題材の魅力を生かした働きかけを考えるきっかけができ、よりよい授業づくりにつながります。ただし、実際の授業では、目標の達成に必要な内容を中心に扱うようにしましょう。

教材の分析・解釈に時間がかかる場合には、他の先生方に声をかけ、協働で行うなどの工夫も考えられます。具体的な教材・題材を一緒に読み解きながら、互いの意見を交流させる活動は、多くの教員が取り組みやすいものであり、校内における研修を深めるきっかけになります。

TRY

様々な校種の教員が集まる研修会を開き、一緒に教材・題材の分析・解釈に取り組んでみて、共通点や相違点を見つけてみるのもよいでしょう。



## 指導の工夫について

ここがポイント!!

目的や意図を明確にして、効果があると思われる働きかけを行うように心がけましょう。

授業で教員が児童生徒にどのような働きかけをするのか、具体的な手立てや方法を準備しておくことによって、児童生徒の発言や学習の様子などから、次の働きかけを考える余裕が生まれます。授業の中で教員が行う働きかけには、様々なものがあります。

イ：発問、説明、指示

ク：資料提示

キ：授業プリント(ワークシート)

ウ：学習形態に関する働きかけ

ア：学習課題に関する働きかけ

カ：ノート指導

エ：学習活動に関する働きかけ



オ：板書

ケ：振り返り

その他

教員は、最も効果があると思われる働きかけを選び、実施します。その際、単元や授業の目標を達成できるかという視点から吟味することが大切です。さらに今後は、「主体的・対話的で深い学び」の実現という視点から吟味することも求められます。

### ア：学習課題に関する働きかけ

学習課題は、「なぜ、どうすれば、どのように」等の「問い」の解決や、「できるようにになりたい、わかりたい」等の「願い」の実現のために、解決しなければならないものです。

#### アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善に向けて（例）

**主体的な学びの視点から**：学習課題と児童生徒が出合う場を演出する

**対話的な学びの視点から**：自分ひとりでは解決が難しい学習課題を設定する

**深い学びの視点から**：学習課題を解決するまでの過程の大切さを確認する

#### ◆授業における「学習課題」チェックポイント

- 「問い」の解決や「願い」の実現のための学習課題ですか。
- 児童生徒に分かりやすく、見通しのもてる学習課題ですか。
- 学級全体で学習課題を共有していますか。

#### ◆その他の留意事項

- 1時間の授業時間の各活動のバランスを考え、「導入」の適切なタイミングで、学習課題を示しましょう。
- 前時の掲示物等を活用しながら、今までの学習過程を想起させるなど、児童生徒が意欲を持続して取り組めるようにしましょう。



## イ：発問、説明、指示

発問、説明、指示は別のものであり、目的によって、使い分ける必要があります。

「発問」の目的：児童生徒の学習意欲を引き出し、学習を深め思考力を育てる など

「説明」の目的：教材の内容を児童生徒に理解しやすくする など

「指示」の目的：学習課題を踏まえて取り組む活動内容を伝える など

### アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善に向けて（例）

**主体的な学びの視点から**：学習課題を自分のこととして受け入れるよう支援する

**対話的な学びの視点から**：意見を交流する際のポイントを明確に示す

**深い学びの視点から**：より説得力のある意見になるよう支援する

### ◆授業における「発問」チェックポイント

発問の目的は明確になっていますか。

- ・興味・関心を高めるため
- ・授業の目標や課題を意識させるため
- ・対立・葛藤を生み出すため
- ・思考の過程を振り返るため
- など

### ◆授業における「説明」チェックポイント

十分な教材分析・解釈に基づく効果的な説明になっていますか。

要点を説明した後に、具体的な内容を説明するようにしていますか。

### ◆授業における「指示」チェックポイント

児童生徒が集中して聞ける状況で指示を出していますか。

一度に欲張りすぎず、簡潔な内容の指示を出していますか。

### ◆その他の留意事項



○ 「質問」は「～は何ですか？」など、知っているかどうかを問うものです。「発問」は「～なのはなぜですか？」など、考える機会を与えるものです。一問一答の「質問」だけに偏った授業にならないようにしましょう。

○ 授業の各段階で、発問・説明・指示を効果的に組み合わせましょう。

#### 導入

興味深い内容で、授業のねらいに意識が向き、見通しをもてる発問・説明・指示に努める。

#### 展開

思考・判断・表現する活動を通して「わかった」「できた」と思える発問・説明・指示に努める。

#### まとめ

児童生徒が学習過程を振り返り、学習内容を整理できる発問・説明・指示に努める。

## ウ：学習形態に関する働きかけ

学習形態には、下記のようなものがあります。それぞれのメリットがあり、そのメリットを生かして、教科や科目、学習内容、授業の場面等に応じ、効果的に設定していくことが大切になります。

「一斉学習」：集団全体の意見や反応が確認できる

「グループ学習」：多様な考えについて、複数の立場から検証できる

「ペア学習」：パートナーと互いの考えを交流させたり、学習状況を確認したりできる

「個別学習」：一人ひとりの状況に応じて学習を進めることができる など

### アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善に向けて（例）

**主体的な学びの視点から**：児童生徒が自分の考えを確認する場を適宜設定する

**対話的な学びの視点から**：対話が生まれる学習形態を意図的に設定する

**深い学びの視点から**：それぞれの学習形態で生まれた成果を価値付ける

### ◆授業における「一斉学習」チェックポイント

- 全ての児童生徒が「参加した」実感をもつことができる学習になっていますか。
- 一人ひとりが思考・判断・表現する時間を確保していますか。

### ◆授業における「グループ学習」チェックポイント

- 異なる意見や価値観が表出されるテーマが準備されていますか。
- グループ内での役割分担や、活動の手順は明確になっていますか。

### ◆授業における「ペア学習」チェックポイント

- 互いに自分の考えをもち相手に伝えたいテーマが準備されていますか。
- 活動が停滞しているペアへの対応を準備していますか。

### ◆授業における「個人学習」チェックポイント

- 児童生徒一人ひとりの学習状況に気を配っていますか。
- 児童生徒一人ひとりの学習状況に応じた個別の支援を準備していますか。

### ◆その他の留意事項

- 児童生徒が、それぞれの学習形態における約束事をきちんと理解した上で活動に取り組むことが必要です。普段から、様々な学習形態を取り入れ、経験を重ねていくことができるようにしましょう。



## エ：学習活動に関する働きかけ

知識・技能の習得や、課題解決のための思考力・判断力・表現力等の育成のためには、**言語活動**や**体験的な活動**、**問題解決的な学習**などを効果的に位置付けることが有効です。

### アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善に向けて（例）

- 主体的な学びの視点から**：活動の目的や意義を確認する
- 対話的な学びの視点から**：他者を意識した活動を設定する
- 深い学びの視点から**：それぞれの学習活動で生まれた成果を価値付ける

### ◆授業における「学習活動」チェックポイント

- 目的を踏まえた学習活動を選択し、準備していますか。
- 児童生徒が学ぶ喜びを味わうことができる活動を準備していますか。
- 児童生徒が学習内容や方法を身に付けることができる活動を準備していますか。

### ◆その他の留意事項



- 全ての教科等において様々な学習活動を経験させることにより、児童生徒がそれぞれの活動の特徴をとらえ、回数を重ねることに充実した活動を実現することができます。

## オ：板書

板書は、「授業の顔」であり、授業の様子を反映します。授業の中で、教員と児童生徒、児童生徒同士をつないでいくのも板書の大きな役割です。授業の大まかな流れや、前時、次時とのつながりが見えてくる板書をめざしましょう。

### アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善に向けて（例）

- 主体的な学びの視点から**：学習の目標や課題、学習の流れを板書する
- 対話的な学びの視点から**：児童生徒の発言を整理して板書する
- 深い学びの視点から**：課題を解決する鍵となった言葉を板書する

### ◆授業における「板書」チェックポイント

- 児童生徒に分かりやすい表現を使っていますか。
- 教員と児童生徒が共に作る板書を意識していますか。

板書に夢中になってしまい、児童生徒の様子を見ないのは本末転倒です。

### ◆その他の留意事項

- 授業1時間で黒板一面分を基本とし、目の前の児童生徒にあった板書計画を毎時間準備することが、授業づくりの柱になります。



## カ：ノート指導

ノートは、児童生徒が授業の様子を振り返り、自分の考えを整理する上で大切です。学習プリントの活用も合わせて、児童生徒がノートを見直すことでいつでも学習内容を思い出すことができるように、指導を工夫していきましょう。

### アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善に向けて（例）

**主体的な学びの視点から**：ノートに自分の考えを整理する習慣をつける

**対話的な学びの視点から**：印象に残った友達の発言などをメモする習慣をつける

**深い学びの視点から**：役立ちそうな見方や考え方などを確認する習慣をつける

### ◆授業における「ノート指導」チェックポイント

- ノートの取り方に関する約束事を学級や学年、学校で共有していますか。
- 児童生徒が、約束事の中で自分なりに工夫することをすすめていますか。

### ◆その他の留意事項



- 優れたノートを取り上げ、良いところを具体的に示しながら学級で紹介することは、児童生徒に明確な目標をもたせることにつながります。

## キ：授業プリント（ワークシート）

授業プリント（ワークシート）は、主となる教材である教科書等の補助的なものです。授業の目標や、児童生徒の実態、学習内容に即したものを作成しましょう。

### アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善に向けて（例）

**主体的な学びの視点から**：自分の考えを書き込むところをつくる

**対話的な学びの視点から**：友達の考えを書き込むところをつくる

**深い学びの視点から**：他の場面でも役立つ内容をチェックできるようにする

### ◆授業における「授業プリント（ワークシート）」チェックポイント

- 必要な情報を過不足なく提供することができていますか。
- 児童生徒が自分の気付きを記入するスペースを作っていますか。

### ◆その他の留意事項

- 図やフローチャート等を使って、児童生徒が内容を理解しやすくするなど、学習が円滑に進む手助けとなるように工夫しましょう。



## ク：資料提示

ICT機器を活用したり教具を工夫したりすることで、実感を伴う体験的な活動を取り入れることができ、児童生徒の興味・関心を喚起し、学習内容のより確かな理解を促すことにつながります。指導のねらいに沿って、適切な場面で活用するように心がけましょう。

### アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善に向けて（例）

**主体的な学びの視点から**：児童生徒の興味・関心を喚起し意欲の向上につなげる

**対話的な学びの視点から**：互いの意見を比較・共有する場を演出する

**深い学びの視点から**：資料から得た情報を基に、確かな理解へ導く支援をする

### ◆授業における「ICT機器や教具の利活用」チェックポイント

- 効果について検討し、明確な意図をもって活用していますか。
- 授業のねらいを達成する手助けとして機器や教具を活用していますか。

### ◆その他の留意事項

- ICT機器や教具による情報の提示は、板書の代わりではありません。重要な点はきちんと板書するなど、働きかけを区別しましょう。



## ケ：振り返り

「振り返り」の活動は、その授業を通じて何が分かったのか・何ができるようになったのかを実感したり整理したりする活動です。分かる・できるようになるまでの過程や、分かる・できるようになるために有効であった方法や手がかりなども確認します。

### アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善に向けて（例）

**主体的な学びの視点から**：未解決な部分やさらに追究したい内容に注目させる

**対話的な学びの視点から**：有効であった友達や先生の言葉に注目させる

**深い学びの視点から**：有効であった見方や考え方に注目させる

### ◆授業における「振り返り」チェックポイント

- 振り返りの視点を示し、十分な時間を確保していますか。
- 記述したり類似問題を解いたりするなど、多様な方法で行っていますか。

### ◆その他の留意事項

- 「振り返り」と「授業評価」は目的が異なることに十分注意しましょう。類似問題として、やまぐちっ子学習プリントが活用できます。



## (2) 授業を実践する

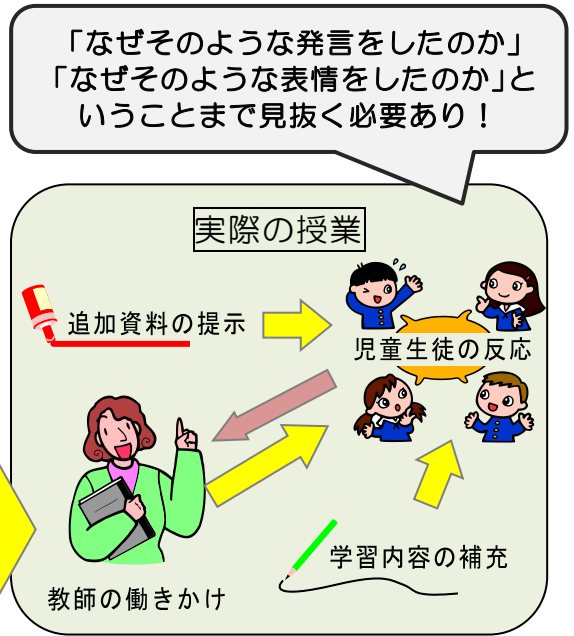
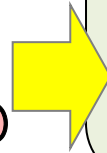
### D (実践する)

事前の構想や計画に沿って、育成すべき資質・能力を一人ひとりの児童生徒が身に付けられるように、適切な実践をします。

授業の事前の構想や計画の中に、児童生徒が発言したり活動したりする場を設定し、これに沿って児童生徒に働きかけていくことは、授業づくりの基本です。

しかし、実際の児童生徒の反応や発言、表情などを見て、臨機応変に事前の構想や計画を修正していくことも必要です。事前の計画を踏まえながら、より効果的な働きかけを心がけましょう。

「臨機応変」に動くことが大切！



### 児童生徒の見取り

ここがポイント!!

日常の授業等を通して、児童生徒の学習状況や特性などを把握し、些細な反応もキャッチできる「アンテナ」を備えましょう。

授業が、教員の一方的な指導に終始しないようにするためにも、児童生徒の反応や発言を的確に見取り、授業に生かしていくことが大切です。

授業を構想する段階で、学級集団の学習状況や特性などを把握し、入念な準備をしておくことで、広い視野をもった見取りができます。

例えば、ペアやグループ活動における児童生徒のやりとりからも、様々な情報を得ることができます。

学習の展開によって、見取る内容は変わります。

いつ

- ・授業全体を通して
- ・学習活動ごとに

何を

- ・発問・指示、学習内容を理解できているか。
- ・本時の学習につながる考えや活動ができているか。
- ・自他の考えを広げ、深められているか。
- ・集団全体の学びを活性化するヒントがないか。

### 見取りの要素例

- ・発言の記録
- ・ノート等の確認
- ・表情の観察

どうやって

どこで

- ・全体の場合
- ・グループやペアの場合
- ・一人学びの場合

本時で何を理解させなければならないのかを教員が明確にし、見る視点を定めておくことが大切です。

TRY

授業の動画を校内研修会で共有するなど、見取りの技術を向上させましょう。





## 教員の働きかけ

ここがポイント!!

児童生徒の状況を見取った後、最も効果的な働きかけは何かを判断し、実行しましょう。

児童生徒の反応を踏まえて、効果的に働きかけていくことにより、教員が自分の思いや願いだけで授業を進めることが少なくなり、児童生徒が主体的に学びを深めていくきっかけとなります。授業における教員の働きかけは、大きく二つに分類されます。

- 本時の学習内容の理解を促すための働きかけ
- 生徒指導の面から学習活動の基盤を整えるための働きかけ

### 教員の働きかけで意識したいことの例

#### ☆ 目的をもった働きかけを！

・求められるものは「学習内容の理解を促すための働きかけ」か、「学習活動の基盤を整えるための働きかけ」か、場面や状況に応じて判断し、適切な働きかけをしましょう。

#### ☆ 今の、その子の、その姿に応じた働きかけを！

・目の前で展開されている状況に最も適した、具体的な働きかけをしましょう。

#### ☆ 児童生徒をゆさぶる働きかけに！

・戸惑っている、迷っているなどの思考に対しては、明確に道筋を示す働きかけをします。逆に、分かっているつもりになっていることには、根拠や論理的な説明を求めるなど、思考を整理させる働きかけも必要です。

#### ☆ 状況に応じて、働きかけに変化を！

・単元での位置や学習の過程に応じて、学習集団や個人の理解度・能力に応じて、働きかけに変化をもたせるようにしましょう。

TRY

具体的な授業の場面を設定し、どのような働きかけを意識すればよいか、考えてみましょう。



## 学習評価の在り方

授業を行う際には、「この時間に何を学ばせるのか、何を学ぶことができたらいいか」という、授業の目標と評価の観点を明確にしておく必要があります。さらに、児童生徒が語る言葉の状態にまで、具体的な表現に直しておくことが大切です。

本時でねらいとする知識・技能、それらを活用する力などについては、観点ごとの評価規準に照らしながら、「十分満足」「満足」「やや不十分」「不十分」等、具体的な状況を段階的に設けます。その上で、児童生徒の様子を観察することにより、確かな見取りが可能になります。

授業で見取った児童生徒の状況を分析し次の指導につなげることで「指導と評価の一体化」を図ることができます。



### (3) 授業を評価する

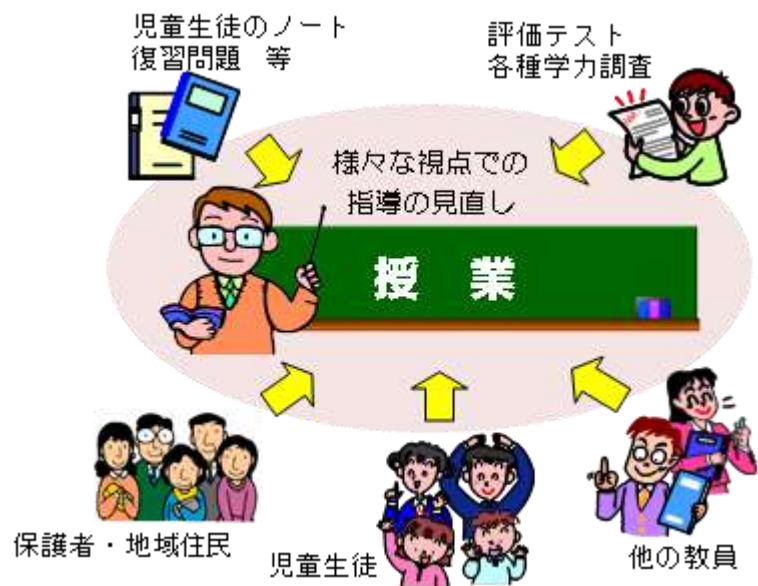
#### C (評価する)

実際の授業が適切で効果的なものであったか、様々な立場・視点からチェックし、評価をします。

構想 (P) し、実践 (D) した授業が適切であったかを評価 (C) する際には、復習問題や評価テスト、各種学力調査などで児童生徒に求められる力が身に付いたかを確認し、教員自身が自分の授業を振り返ることが大切です。

さらに、自分以外の人からの評価も、授業力を高めていくためには効果的です。共通の評価項目を決めておき、様々な立場からの評価を比べてみるにより、学校全体の研修を深める上での手がかりを見つけることもできます。

様々な立場・視点からの指摘を踏まえ、自分の授業の改善点を整理しておきましょう。



#### 児童生徒による授業評価

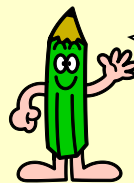
ここがポイント!!

児童生徒の声を毎時間受け止め、次時以降の授業構想を変えていきましょう。

事前に構想し、実践した授業が、児童生徒にとって、「分かる喜び」と「できる楽しさ」を感じることができるものであったか、児童生徒の視点に立って授業を見直しましょう。そのために活用できるのが「児童生徒による授業評価」です。

#### 児童生徒による授業評価の項目例

- ・ 授業のめあてがよく分かった。
- ・ 先生の説明は分かりやすかった。
- ・ 黒板には、授業の内容が分かりやすく書かれていた。
- ・ 声の大きさや話すスピードがちょうどよかった。
- ・ 班で話し合ったり、自分の意見を発言したりする機会があった。
- ・ 学習したことを振り返る活動があった。 など



「児童生徒による授業評価」と「まとめ・振り返り」の目的は違いますが、実際には、同じプリントを使って実施するなど、同時に行うことも可能です。



各学校で大切にしたい教員の働きかけを評価項目にし、計画的・継続的に取り組んでみましょう。また、評価項目等を更新することも大切です。



## 教職員同士による授業評価

ここがポイント!!

いつでも、どこでも、誰でも、誰にでも、積極的に授業公開を行う姿勢をもちましょう。

教職員の視点で、互いの授業を参観し検討しながら、効果的であった指導方法や、授業づくりにおける課題を見いだすことも大切です。

学力向上推進リーダー・推進教員、英語教育推進教員との授業や、指導主事の訪問、校内の研究授業など特定の場だけでなく、日常的にお互いの授業を参観し、授業力を磨き合ひましょう。

### 【教職員同士の授業評価シートの例】

平成（ ）年（ ）月（ ）日（ ）曜日（ ）校時

記入者氏名：（ ）

★授業者氏名：（ ）

★授業教科・単元名：（ ）

★授業対象学級：（ ）

★本時の目標：

★授業評価表 ※評価は5段階で記入してください。

	評価項目	評価	気付き
はじめ	① 目標は適切であったか ※指導要領との関連、分かりやすさ、提示方法など		
	② 教材・題材は適切であったか ※目標との関連、難易度、情報量など		
	③ 児童生徒の興味・関心を高める工夫があったか ※児童生徒の認識や知識との関連など		
なか	④ 発問や指示、説明は適切であったか ※場面や児童生徒の状況に応じた使い分けなど		
	⑤ ICT機器や教具の活用は適切であったか ※目的や意図に応じた効果的な活用など		
	⑥ 学習形態・学習活動は適切であったか ※場面や児童生徒の状況に応じた使い分けなど		
	⑦ 児童生徒の様子を的確に見取り、臨機応変に働きかけが行われていたか ※児童生徒のつまずきの把握や問い直しなど		
おわり	⑧ 本時の学習内容を確認する場があったか ※本時の目標との対応、確認方法の適切さなど		
	⑨ 自分の学びを振り返る場があったか ※十分な時間の確保、次につながる助言など		
	⑩ 学習の様子が分かる板書だったか ※事前の計画、児童生徒の言葉、構造化など		

★その他、何か気付きや感想があれば…

（ ）



## 保護者や地域住民の方々による授業評価

**ここがポイント!!**

児童生徒にとって本当に分かりやすい授業をめざし、多様な意見を受け止めましょう。

児童生徒にとって分かりやすい授業とは、誰が見ても分かりやすい授業であるとも言えるでしょう。そこで、参観日や自由参観週間、ユニット型研修等の設定により、保護者や地域住民の方々に積極的に授業を公開し、評価していただくことも大変効果的です。

### 【保護者や地域住民の方々の授業参観シートの例】

※この参観シートは、本校教員の授業力向上のための参考とさせていただきます。授業を参観されて気付いたことや感じたことを、率直に記入してください。

平成（ ）年（ ）月（ ）日（ ）曜日（ ）校時

★授業者氏名：（ ）

★授業教科・単元名：（ ）

★授業対象学級：（ ）

#### ★チェック表

	チェック項目		当てはまる方に ○をつけてください
はじめ	①	休み時間と授業時間をきちんと切り替えていましたか	はい いいえ
	②	子どもたちが学習に興味・関心を高めるための工夫がありましたか	はい いいえ
なか	③	先生が説明していることや黒板に書いたことは分かりやすかったですか	はい いいえ
	④	先生は、子どもの様子をとらえ、子どもの反応に丁寧に対応していましたか	はい いいえ
	⑤	子どもたちが考えたり、意見を交換したり、発表したりする場面がありましたか	はい いいえ
おわり	⑥	授業で学んだことをまとめる場面がありましたか	はい いいえ
	⑦	授業と家庭学習をつなげるための工夫がありましたか	はい いいえ
子ども	⑧	子どもたちは進んで学習に取り組んでいましたか	はい いいえ
	⑨	子どもたちは授業の目標を達成していましたか	はい いいえ

★その他、何か気付いたことや感じたことがあったら、記入してください。箇条書きでかまいません。参観した授業と直接関係のないことでもかまいません。

.....

ありがとうございました。

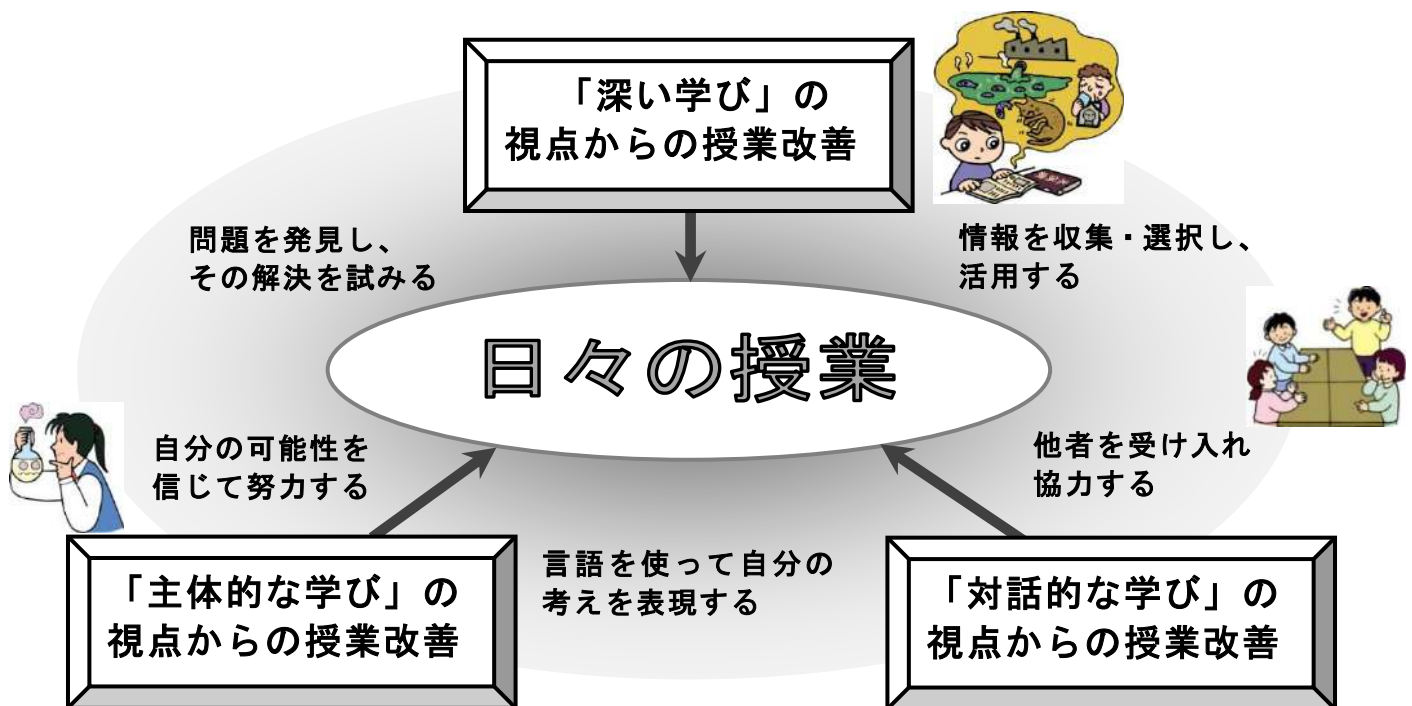
## (4) 授業を改善する

### A (改善する)

授業の評価によって明らかになった改善点をふまえ、よりよい授業にするための具体的な対策を考えます。

授業改善を進めるにあたっては、ここまで見てきたP（構想）→D（実践）→C（評価）の流れを通して明らかになった授業の問題点を、教員の立場から検討し改善していくのが基本です。

さらに、「児童生徒にとって、自分の成長につながる学びになっているか」ということも考えながら、授業の在り方を改めて見直してみましょう。これが、「主体的・対話的で深い学びの実現」すなわちアクティブ・ラーニングの視点からの授業改善を意識した取組です。「主体的・対話的で深い学びの実現」をめざして授業改善を進めることにより、児童生徒は、情報を収集・選択し活用する力や、言語を使って自分の考えを表現する力といった、全ての学習の基盤となる資質・能力を、実際に使いながら身に付けていくことができます。



なお、「主体的・対話的で深い学びの実現」すなわちアクティブ・ラーニングの視点からの授業改善を意識した取組は、**特定の型を意図したものではありません**。また、三つの授業改善の視点は、**相互に関連しているものであり、一体的なもの**です。それぞれの視点に注目することの意味を考えながら、日々の授業改善を進めていきましょう

次のページに、文部科学省資料をもとに作成した図を掲載していますので、「主体的・対話的で深い学びの実現」をイメージする際の手掛かりにしてください。

## 【主体的な学び】

学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「**主体的な学び**」が実現できているか

<例>

- ・学ぶことに興味や関心を持ち、毎時間、見通しをもって粘り強く取り組みとともに、自らの学習をまとめ振り返り、次の学習につなげる
- ・「キャリア・パスポート（仮称）」などを活用し、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり、振り返ったりする など

## 主体的な学び

## 対話的な学び

## 深い学び

## 【対話的な学び】

子ども同士の協働、教員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「**対話的な学び**」が実現できているか

<例>

- ・実社会で働く人々が連携・協働して社会に見られる課題を解決している姿を調べたり、実社会の人々の話を聞いたりすることで自分の考えを広める
- ・あらかじめ個人で考えたことを、意見交換したり、議論したりすることで新たな考え方に気が付いたり、自分の考えをより妥当なものとしたりする
- ・子ども同士の対話に加え、子どもと教員、子どもと地域の人、本を通して本の作者などとの対話を図る など

学びを人生や社会に生かそうとする  
学びに向かう力・  
人間性等の涵養

生きて働く  
知識・技能の  
習得

未知の状況にも  
対応できる  
思考力・判断力・表現力等  
の育成

## 【深い学び】

各教科等で習得した知識や考え方を活用した「**見方・考え方**」を働かせ、問いを見いだして解決したり、自己の考えを形成し表したり、思いを基に構想、創造したりすることに向かう「**深い学び**」が実現できているか

<例>

- ・事象の中から自ら問いを見いだし、課題の追究、課題の解決を行う探究の過程に取り組む
- ・精査した情報を基に自分の考えを形成したり、目的や場面、状況等に応じて伝え合ったり、考えを伝え合ったりすることを通して集団としての考えを形成したりしていく
- ・個性を働かせて、思いや考えを基に、豊かに意味や価値を創造していく など

## 4 授業改善を進めるための研修体制 ～学校全体で授業改善の雰囲気をもたせることが大切です～

### ✔️ いくつか当てはまりますか？チェックしてみましょう！

<input type="checkbox"/>	授業をすることが好きである。
<input type="checkbox"/>	「こんな授業をしてみたい」というイメージをもっている。
<input type="checkbox"/>	指導する児童生徒の学力状況・学習状況を把握している。
<input type="checkbox"/>	他の先生の授業を見る機会がたくさんある。
<input type="checkbox"/>	授業を見てもらう機会がたくさんある。
<input type="checkbox"/>	授業づくりについて相談できる先生がいる。
<input type="checkbox"/>	職員室で、授業の話題をよくしている。
<input type="checkbox"/>	育てたい児童生徒の具体的な姿を全校の先生と共有している。
<input type="checkbox"/>	授業での学習規律や学習ルールを全校で共有している。
<input type="checkbox"/>	授業での重点取組事項を全校で共有している。

授業づくり・授業改善にあたっては、それぞれの教員が行うことだけではなく、他の先生方と協働して行うこと、学校全体で行うことがあります。これらをバランスよく実施していく必要があります。

授業改善の雰囲気を、全校でつくっていくことが、児童生徒の学力向上につながります。



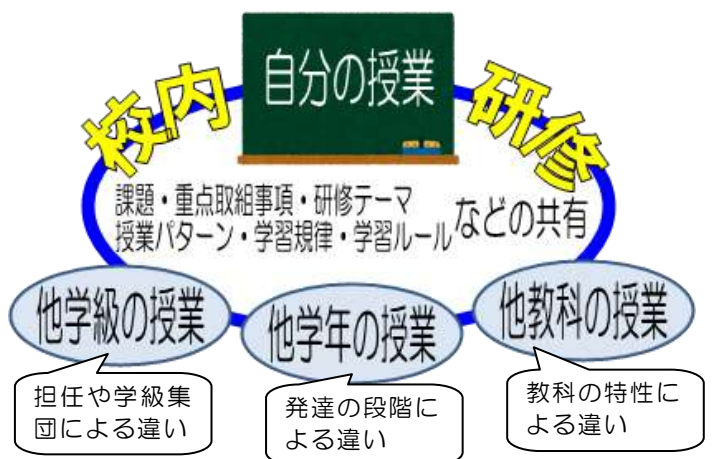
### 校内研修

**ここがポイント!!**

研修を通して共有したことを確実に実施し、学校の「チーム力」を高めていきましょう。

教科や学習内容、発達の段階に応じて、授業での指導方法は異なりますが、校内研修では、自校の児童生徒の実態をもとに、共通の視点をもって、それぞれの授業における指導方法を検討していきましょう。

学級、学年、教科の枠を越えて、学校全体で、授業を改善していこうとする体制をつくり、様々な機会を活用しながら研修を深めていくことが大切です。





## 校種間連携による研修

学習指導要領では、教科等での学習内容が、学年や領域ごとに、系統的・連続的に配列されています。

教員同士が、それぞれの学習内容や相互のつながりについて理解し、連携・協力して指導にあたることは、教育効果を高めることはもちろん、地域からも信頼される学校づくりにつながります。県教委では「小中連携カリキュラム」を作成し、その活用を推進しているところです。（詳しくは義務教育課HPにある指導資料「子どもの学びをつなぐ小中連携～小中連携カリキュラムのすすめ～」を参考にしてください。）

**ここがポイント!!**

児童生徒の9年間の学びを支えるために、系統性のある授業を構築しましょう。

【小中連携カリキュラムの一例】

小学校理科・中学校理科 単元系統配列一覧表 <生命>		※実施は連携つながる項目を、破線は階段的につながる項目を示しています。							
		第1期		第2期		第3期			
		小学校第3学年	小学校第4学年	小学校第5学年	小学校第6学年	中学校第1学年	中学校第2学年	中学校第3学年	
生命	生命の構造と機能	植物と動物 ・植物の成長と細胞分裂 ・動物の成長と細胞分裂	人の体のつくりと運動 ・骨格 ・呼吸器 ・消化器 ・循環器 ・泌尿器 ・内分泌系 ・免疫系 ・感覚器 ・生殖系 ・発育と老化	人の体のつくりと運動 ・骨格 ・呼吸器 ・消化器 ・循環器 ・泌尿器 ・内分泌系 ・免疫系 ・感覚器 ・生殖系 ・発育と老化	植物の体のつくりと働き ・根・茎・葉のつくりと働き ・花のつくりと働き	動物の体のつくりと働き ・骨格・呼吸器・消化器・循環器・泌尿器・内分泌系・免疫系・感覚器・生殖系・発育と老化	動物の体のつくりと働き ・骨格・呼吸器・消化器・循環器・泌尿器・内分泌系・免疫系・感覚器・生殖系・発育と老化	動物の体のつくりと働き ・骨格・呼吸器・消化器・循環器・泌尿器・内分泌系・免疫系・感覚器・生殖系・発育と老化	
	多様性と共通性	多細胞と単細胞 ・動物の成長と学習 ・植物の成長と学習	動物の体のつくりと働き ・骨格・呼吸器・消化器・循環器・泌尿器・内分泌系・免疫系・感覚器・生殖系・発育と老化	動物の体のつくりと働き ・骨格・呼吸器・消化器・循環器・泌尿器・内分泌系・免疫系・感覚器・生殖系・発育と老化	動物の体のつくりと働き ・骨格・呼吸器・消化器・循環器・泌尿器・内分泌系・免疫系・感覚器・生殖系・発育と老化	動物の体のつくりと働き ・骨格・呼吸器・消化器・循環器・泌尿器・内分泌系・免疫系・感覚器・生殖系・発育と老化	動物の体のつくりと働き ・骨格・呼吸器・消化器・循環器・泌尿器・内分泌系・免疫系・感覚器・生殖系・発育と老化	動物の体のつくりと働き ・骨格・呼吸器・消化器・循環器・泌尿器・内分泌系・免疫系・感覚器・生殖系・発育と老化	
	生命の連続性	動物の成長と学習 ・動物の成長と学習 ・植物の成長と学習	動物の成長と学習 ・動物の成長と学習 ・植物の成長と学習	動物の成長と学習 ・動物の成長と学習 ・植物の成長と学習	動物の成長と学習 ・動物の成長と学習 ・植物の成長と学習	動物の成長と学習 ・動物の成長と学習 ・植物の成長と学習	動物の成長と学習 ・動物の成長と学習 ・植物の成長と学習	動物の成長と学習 ・動物の成長と学習 ・植物の成長と学習	動物の成長と学習 ・動物の成長と学習 ・植物の成長と学習
	環境のかかわり	身近な自然の観察 ・動物の成長と学習 ・植物の成長と学習	動物の成長と学習 ・動物の成長と学習 ・植物の成長と学習	動物の成長と学習 ・動物の成長と学習 ・植物の成長と学習	動物の成長と学習 ・動物の成長と学習 ・植物の成長と学習	動物の成長と学習 ・動物の成長と学習 ・植物の成長と学習	動物の成長と学習 ・動物の成長と学習 ・植物の成長と学習	動物の成長と学習 ・動物の成長と学習 ・植物の成長と学習	動物の成長と学習 ・動物の成長と学習 ・植物の成長と学習
		比較	関係付け	条件別時	推論				



## キャリアステージを意識した研修

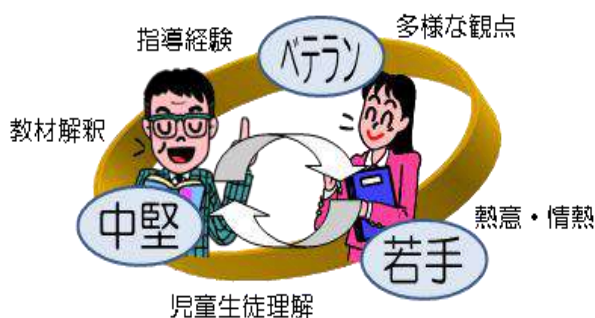
異なるキャリア、また、異なる教科等の教員を混在させた研修体制を確立し、日常的な授業改善を図っている学校も少なくありません。

若手教員は、ベテラン教員から多彩な指導や深い教材解釈の方法を学ぶことができます。またベテラン教員は、若手教員から異なる観点での指導方法や授業づくりに対する意欲などを再認識できます。そして、中堅教員は、学校の中で自分が果たす役割を意識しながら、自己の教師力向上に励む必要性を改めて実感することができます。

それぞれの良さや個性を生かすとともに、キャリアステージに求められる資質・能力を意識し、教員同士が支え合いながら、互いに授業力を高めていきましょう。

**ここがポイント!!**

それまで積み重ねたキャリアに応じて個々の授業力を高め、児童生徒によりよい授業を提供しましょう。



子どもたちの未来のために、教育のプロとして、  
全ての学校・全ての教員で授業を改善しましょう



# 本資料の活用について

本資料は、いわゆる四点セットの一つとして、平成25年7月に配布した「授業づくりと評価の手引き 基礎編」をもとに、**学習指導要領の改訂に伴い注目されている「主体的・対話的で深い学び」の実現、いわゆるアクティブ・ラーニングの視点からの授業改善を意識しながら、山口県教育庁義務教育課で見直しを行ったもの**です。

基本的な内容が中心ですが、今一度確認することで、日々の授業改善に結び付けていくことができます。また、本資料に書かれている内容について校内研修等で取り上げていくことで、教職員間で共通理解を図ることができ、全校体制での取組につなげることができます。さらに、各学校で進めている独自の取組について加筆していくことにより、本資料がさらに内容の充実したものになることが期待されます。

その他にも、工夫次第で、いろいろな使い方ができる資料になっています。ぜひ先生方の手元において、積極的に活用してください。



いわゆる四点セットとは、本資料「授業づくりと評価の手引き」と、「学習力向上の基礎」「板書型指導案」「通常の学級における特別支援教育の充実のために」を指しています。これらを手元において、常に研鑽に励みましょう！

四点セット以外にも、各種指導資料や、学力分析支援ツール、やまぐち学習支援プログラムなど、授業改善や補充学習の充実に活用することのできるものがたくさんあります。積極的に活用していきましょう。



# 子どもを知ろう

## ～「学習力」向上の基礎～

- 1 「学習力」の必要性
- 2 子どもの特性
- 3 「学習力」向上のルール
- 4 「学習力」チェックリスト例

# 「学習力」の必要性

- 自ら進んで学習に取り組むことのできる子どもたちは、学習の規律を身に付けています。具体的には、時間を守る、よい姿勢を保つ、机上进行整理するなど、当たり前のことをきちんと毎日繰り返すことができるのです。
- 私たち教師が学力向上について議論する際、子どもたちが「獲得した力」を取り上げることが多くなります。その一方で、子どもたちの学習に向かう意欲や態度、学習方法など「学習に向かう力」の育成も図っていくことが大切です。
- 時間や場所、指導者等が変わっても、自ら進んで「学習する力」のことを「学習力」と呼び、義務教育9年間を通じて、根気強く指導していくことが、子どもの未来を切り拓く近道です。

**学 力 = 獲得した力 + 学習に向かう力(「学習力」)**

— 子どもに感じ取ってほしいこと —

- 「学習力」が身に付くと、授業が楽しくなる。
- 「学習力」が身に付くと、学力が向上する。
- 「学習力」の高い学級では、みんなが伸びる。



- 学習規律を守り、進んで学習するのが当たり前だと思える学級にしましょう。
- 学習規律が乱れると、居心地が悪いと感じる学級にしましょう。
- 学習規律が守られていることを評価し、子どもにフィードバックしましょう。

★ 学年始め、学期始め、月始め、週始めなど区切りを大切にしながら、だれにでも理解できる平易な言葉でめあてを定め、その達成状況についての評価をその都度行ってください。

★ 決めたことは、全員が達成できるまで根気強く指導することが大事です。あきらめず、凡事徹底の精神を貫いてください。

# 子どもの特性

- 子どもは、鋭い洞察力で、指導者を実によく観察しています。ぶれない指導の軸をもった指導者を信頼し、安心して授業に臨みますが、時や場、相手によって指導の軸がぶれる指導者には不信感を抱き、決して心を開くことはありません。
- 子どもたちは、たいへん利口で、自分を高めたいと思っています。やるべきことが明確で、努力すれば達成できる状況において、努力を惜しみません。しかし、適切な評価を受けなければ、次第にやる気を失い、利口なだけに楽な道を探し始めます。
- 始めはやりたくないと思っても、仲間が熱心に取り組んでいれば、やり始めます。そのうちに夢中になり、できるところまでがんばります。壁に当たっても、指導者や仲間に励まされ、乗り越えていきますので、根気強く見守ることが必要です。

**「学習力」の向上 = 個人の心の成長 + 集団としての規律の定着**

— 「学習力」を高めるために～次の点に気を付けましょう～ —

- 日常生活でよい習慣を身に付けさせる。

授業開始の時間を守る	→	学習の準備ができるようになる
授業終了の時間を守る	→	集中して学習に取り組むようになる
姿勢が悪いのを容認しない	→	頬杖をついたり机に伏せたりする子がいなくなる

- 環境整備に細心の注意をはらいましょう。

落書きはすぐに消し、常に環境美化に心がける。  
器物の破損を見逃さず、直ちに修繕する。  
厳しい指導をしたならば、その後を必ず見届け、できるようになった姿を価値付ける。  
場所や物を提供したら、片付け状況を必ず確認し、常にあるべき物があるべき場所に定める。



- ★ 全てを子どもに任せてはなりません。適切な管理の下で、子どもは優れた能力を発揮します。ただし、管理はあくまでも手段であって目的ではないことに留意してください。
- ★ 子どもの行いを積極的に評価しましょう。指導と評価を粘り強く繰り返すことが、子どもの学習力を高め、人に見られていない場面でも正しい行動をとることができるようになります。

# 「学習力」向上のルール

## 1 指導者みんなが同じ方向性・意図を統一

同じ行動をとっても、何も言われなかったり、叱られたりすれば……  
子どもは、何をすればよいのか、正しい判断できなくなります。  
何がよいことで、悪いことなのかを理解させましょう。  
よいことは、みんな褒め、いけないことはやり直させることを徹底しましょう。

## 2 たくさん褒めて、価値付ける

褒めるときは、心から感情を込めて、子どもの目を見て表情豊かに伝えてあげましょう。  
もし、1つ厳しく叱ることがあったなら、できたことやよいことを見つけて2つ褒めてあげましょう。  
子どもにとって、始めは指導者からほめられることが最大のご褒美です。  
それが最終的には、指導者への信頼や尊敬へと高まっていきます。  
できるだけ子どもの小さな変化をとらえては、価値付けていきましょう。  
子どもへの愛情を言葉にして伝えるように努めましょう。

## 3 叱るときは、本気で 短く タイミングよく

中途半端に叱っても子どもには何も通じません。  
子どもの微かなサインを見逃さないようにしましょう。  
弱い心が出た時、または出ようとしている時に、厳しく、短く、目を見て叱りましょう。  
だらだら話すのは無駄です。前のことを蒸し返すのはもったいありません。  
時間が経過したことに対して叱っても、叱られていることの意味は伝わりません。  
叱る言葉にも子どもへの愛情を込めるように努めましょう。



- ★ 学習規律は、一朝一夕に定着できるものではありません。  
ルールを示し、それをきちんと守ることが心地よいと感じさせる  
ことが必要です。
- ★ ルールを守らないことが格好悪いと指摘できるような学習集団  
をつくってください。

# 「学習力」チェックリスト例

## 授業開始前

- 授業の開始時刻を守っている
- 学習の準備が整っている
- 姿勢を正して学習開始の挨拶ができる

## 授業中

- 人の話を最後までしっかり聴いている
- 背筋が伸びている
- 「はい」と返事ができている
- みんなに聞こえる声で発言している
- 丁寧な言葉で話している
- 私語が無く、学習に集中している
- 丁寧な文字でノートを書いている

## 授業後

- 姿勢を正して学習終了の挨拶ができる
- 学習道具を片付け、次の準備をしている
- 教室を移動する際に落ち着いて廊下を歩行している

## その他

- 鉛筆やはしを正しい握り方で使用している
- 落書きが一つもない
- ゴミが落ちていない
- 机の中を整理している
- 教室のロッカーや空き教室を整理している

※ チェックリストを活用して、気になる項目がある場合は、自分一人に対応しようとせず、同学年や各主任等の先生に、速やかに相談しましょう。子どもの学習力は教師みんなが育てていくものです。学級担任が一人で抱え込んではいけません！

学級崩壊深刻度表(抜粋)

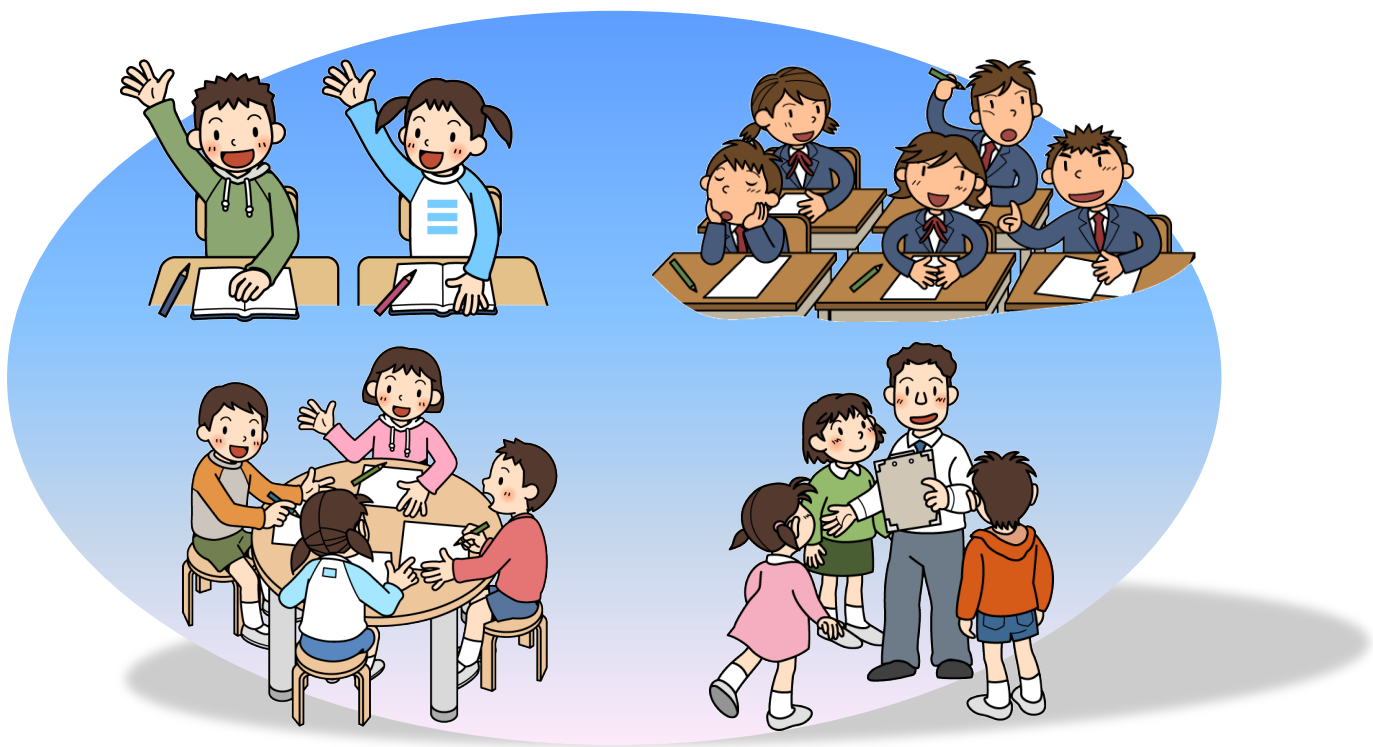
レベル	学級の状況等	備考
<b>A10</b>	暴力やいじめが頻発し、子どもや教師が身の危険を感じる。	担任交代など学校全体の対応が必要となる状況
<b>A9</b>	日常的に教師に反抗がみられる。	
<b>A8</b>	机など備品を粗末に扱う。	
<b>B7</b>	私語や逸脱行動で授業にならない。	担任一人では対応が難しい状況。
<b>B6</b>	授業時間外に口げんかなどが多発する。	
<b>B5</b>	無視や物隠しが頻発する。	
<b>C4</b>	常にざわついている。	さほど深刻ではない状況
<b>C3</b>	教室が乱雑になる。	
<b>C2</b>	忘れ物が目立つ。	
<b>C1</b>	言葉遣いが悪くなる。	

※小谷川元一・東京福祉大学准教授による「学級崩壊深刻度表」による

# 通常の学級における 特別支援教育の充実のために

～「個別的な支援」と「集団への指導」による取組～

小・中学校版



平成26年3月  
山口県教育委員会



## 資料のねらいと構成

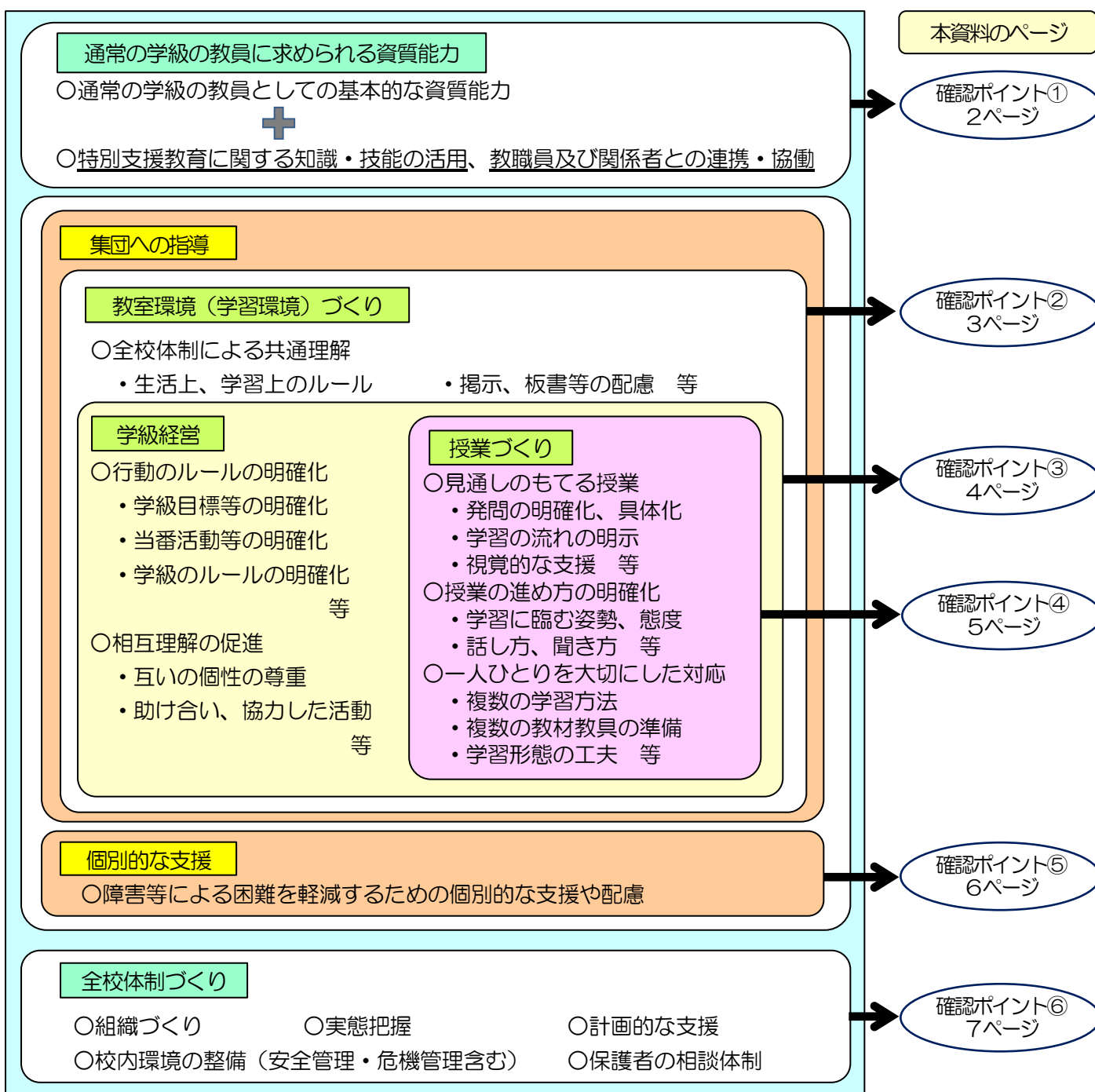
### 児童生徒一人ひとりを大切にする教育の推進

発達障害等により特別な教育的支援を要する児童生徒をはじめ、全ての児童生徒にとって、教室が安心・安全で、わかる喜びや学ぶ楽しさを味わうことのできる場所であることはとても大切です。

また、発達障害等のある児童生徒は、学校全体で支援することが重要であり、通常の学級の教員には、特別な教育的支援を要する児童生徒を指導・支援するに当たっての基本的な姿勢も求められます。

この資料では、全ての児童生徒に安心できる学校生活や主体的な学びを提供するための工夫、学校が組織として児童生徒や保護者を支援していくためのポイント等を取り上げています。

本資料を活用して、児童生徒の豊かな心や確かな学力の育成に向けた各学校の取組を、特別支援教育の視点で再確認し、児童生徒一人ひとりを大切にする教育の推進に役立ててください。



## 確認ポイント① 特別な教育的支援を要する児童生徒への指導・支援の基本的な姿勢

### 特別な教育的支援を要する児童生徒が在籍する通常の学級の教員に求められる資質能力

発達障害やその傾向のある児童生徒をはじめ、特別な教育的支援を要する児童生徒は、学校全体で育てるという共通認識をもつことが重要です。

管理職のリーダーシップのもとで全教職員が協力し合い、特別な教育的支援を要する児童生徒への指導を、全校体制で組織的、計画的に進めるようにしましょう。

また、障害のある児童生徒を含む多様な教育的ニーズのある児童生徒が在籍している学級の教員には、通常の学級の教員としての基本的な資質能力に加え、自分の授業や指導の幅を広げたり、他の教職員と連携・協働したりするための力などが求められます。

### 通常の学級の教員に求められる資質能力の考え方

#### <管理職の資質能力>

○特別支援教育を視野に入れた学校経営と評価

#### <校内コーディネーター、通級による指導・特別支援学級担当の資質能力>

○協働する仕組みづくり、通常の学級への支援

○関係機関、保護者・家庭との連携

#### <特別な教育的支援を要する児童生徒が在籍する通常の学級の教員の資質能力>

○自分の授業や指導の幅を拡げることができる

・児童生徒へのまなざし（できない気持ちや、できない要因の理解）

・多様な授業方法・学級経営の方法を知っている、または活用できる

○同僚の教員と協働することができる

・一人で抱え込まない、支援を求めることができる

・校内支援体制等の協働する仕組みを理解し、参画、または活用できる

○保護者の相談に応じ、協働することができる

#### <通常の学級の教員としての基本的な資質能力>

○授業づくり ○学級経営 ○児童生徒理解 ○保護者との対応

#### <土台となるもの>

○児童生徒への愛情 ○教育に対する使命感や責任感

○児童生徒を伸ばそうとする意欲や情熱 ○豊かな人間性 など

「インクルーシブ教育システムにおける教育の専門性と研修カリキュラムの開発に関する研究」（国立特別支援教育総合研究所）を参考に作成

### 本資料の活用例

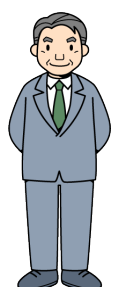


年度始めの校内研修会で、1～2ページを使って、「個別的な支援」の重要性とともに、全校体制を生かした「集団への指導」を充実させていくことを、全教職員で確認しました。

3ページを参考に作成した教室環境チェックリストや、4ページの学級経営チェックリストを使って、新年度に備えました。また、教室環境については、毎月の安全点検の機会を活用して定期的に確認しています。

校内の授業研究のための事前検討会で、5・6ページを参考に具体的な支援や配慮を協議し、学習指導案に明記することで、特別支援教育に係る授業評価が充実しました。

年度始めと年度末に、校長、教頭、学年主任、生徒指導主任、教育相談主任、校内コーディネーターが、7ページの組織支援チェックリストを使って、学校の状況を把握し、改善策を検討しています。

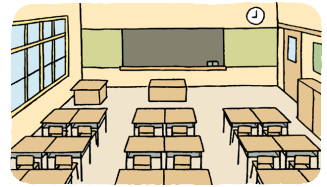


## 確認ポイント② 落ち着いて過ごせる教室環境（学習環境）づくり

### 全ての児童生徒が落ち着いて過ごせる教室環境（学習環境）

発達障害やその傾向のある児童生徒は、周囲の小さな変化が気になって注意が続かないことがある一方で、教職員が配慮することで落ち着いて取り組むことができる場合もあります。

全ての児童生徒が安心でき、落ち着いて過ごせるために、不要な刺激を減らしたり、整理整頓に努めたりすることが大切です。ここでは、教室環境（学習環境）チェックリストの例を紹介します。視覚的な支援は状況に応じて変更していきましょう。また、項目によっては学校全体で検討し、共通理解することが大切です。



### 教室環境（学習環境）チェックリスト（例）

集中しやすいように	<ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 黒板が見えやすく、板書を書き写しやすい座席に配慮している。</li> <li><input type="checkbox"/> 教員からの支援を受けやすい座席に配慮している。</li> <li><input type="checkbox"/> 備品や掲示物、外の景色や音などが過度の刺激にならない座席に配慮している。</li> <li><input type="checkbox"/> まぶしすぎたり、暗すぎたりしない座席に配慮している。</li> <li><input type="checkbox"/> 前面黒板がきれいに消された状態で授業が始められている。</li> <li><input type="checkbox"/> 前面に不要な掲示物がない。</li> <li><input type="checkbox"/> 授業の開始時に児童生徒の机の上に必要な物だけが出ている。</li> <li><input type="checkbox"/> 授業の終わりごとに机の上に何も置いていない状態になっている。</li> <li><input type="checkbox"/> 定期的に机の中を点検させ、整理させている。</li> <li><input type="checkbox"/> 廊下のフックやロッカーなど、持ち物が整理しやすいように工夫している。</li> <li><input type="checkbox"/> 教員の声は全ての児童生徒に届く、適度な大きさである。</li> <li><input type="checkbox"/> 教員の話し方は丁寧に聞き取りやすい。</li> <li><input type="checkbox"/> 教員の表現が豊か（音声、表情、身振り、動作等）で、温かい雰囲気である。</li> <li><input type="checkbox"/> 机間指導、声かけ等、教員の働きかけが適切である。</li> </ul>
トラブルを防ぐ	<ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 教員の机の上には必要なものしか出ていない状態になっている。</li> <li><input type="checkbox"/> 教員用ロッカーが生徒の視野に入る場合、中が見えないようにしている。</li> <li><input type="checkbox"/> 教室の棚や掲示物の整理がされている。</li> <li><input type="checkbox"/> 朝、教室に入ったとき、机の並びが整っている。</li> <li><input type="checkbox"/> 朝、教室に入ったとき、ゴミが落ちていない。</li> <li><input type="checkbox"/> 危険な物（図工や技術の道具等）が身近なところにはなく、片付けられている。</li> <li><input type="checkbox"/> 壊れやすい物や、はがれかけた掲示物を放置しないようにしている。</li> <li><input type="checkbox"/> 人間関係でトラブルになりやすい児童生徒の座席に配慮している。</li> <li><input type="checkbox"/> サポートをしてくれる児童生徒の座席に配慮している。</li> <li><input type="checkbox"/> 児童生徒の机と机の間隔が適切である（近すぎない。遠すぎない。）。</li> </ul>
見通しをもちやすくする	<ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 1日のスケジュールが簡潔に提示してある。</li> <li><input type="checkbox"/> 次の授業や活動の準備物、移動先等の指示が視覚的に提示されている。</li> <li><input type="checkbox"/> 給食当番やそうじ当番、日直等の仕事の内容やローテーションが掲示されている。</li> <li><input type="checkbox"/> 当番活動の直前に、児童生徒自身に仕事の内容や手順等を確認させている。</li> <li><input type="checkbox"/> 児童生徒が何をしてもよいかわからない時間や状況に対して、個別的な支援が行われている。</li> <li><input type="checkbox"/> 初めて体験する行事では、ビデオ等で前年度の様子を示したり、予行練習を行ったりしている。</li> <li><input type="checkbox"/> スケジュールの変更等に対して、事前に見通しをもちやすくなるような支援が行われている。</li> <li><input type="checkbox"/> 一人ひとりの児童生徒に合った方法で、次の日の連絡が確実に伝わっている。</li> </ul>

## 確認ポイント③ 一人ひとりを大切にする学級経営

### 一人ひとりを大切に、所属感を高める学級経営

学校生活の基本は学級であり、特別な教育的ニーズのある児童生徒だけでなく、全ての児童生徒にとって、学級が温かく、互いに認め合い、励まし合いながら成長していく集団であることが重要です。

ここでは、発達障害等のある児童生徒を含め、全ての児童生徒が安心して楽しく学ぶとともに、児童生徒が互いの個性を尊重し、協力して、主体的に取り組める学級経営を行う上で重要となるポイントをまとめています。

### 学級経営チェックリスト（例）

#### 安心できる学級づくり

- 叱責や注意よりも、できるだけ称賛する場面を増やすようにしている。
- 好ましくない行動の代わりとなる適切な行動（どうすればよいか）を、わかりやすく説明している。
- 児童生徒の自尊心を傷つけないよう、叱責や注意の仕方を工夫している。
- 誰もが発言・質問しやすい雰囲気をつくっている。
- 誰もが「困った」「わかりにくい」「教えてほしい」と言える雰囲気をつくっている。
- 多様な意見や考え方が出せる雰囲気をつくっている。
- 児童生徒同士で教え合ったり、助け合ったりする場面を取り入れている。



#### 支え合う学級づくり

- 学級目標を具体的に、わかりやすく掲示している。
- 日々の生活の中で学級目標を踏まえた具体的な「めあて」を設定している。
- 学級のルールを明確にして、文字や絵、写真等を活用するなど、視覚的な支援を行っている。
- 「ルールを守ろうとする姿」を認め、集団の一員であることとルールの大切さを意識させている。
- 「ルールを守らない児童生徒」に対しては、実態に応じて、必ず、最後まで丁寧に指導をしている。
- 「ルールを守らないことを黙認する児童生徒」にも、丁寧に指導をしている。
- 児童生徒の得意なことや好きなことを把握し、学校生活において活躍できる機会をつくっている。
- 児童生徒の努力の過程を認め、励ましている。
- 教員が率先して「ありがとう」の気持ちを表現し、感謝の気持ちを自然に伝え合える雰囲気をつくっている。

#### 特別な教育的支援を要する児童生徒の周りの児童生徒に関して

- 教員自身が、発達障害等のある児童生徒への対応やサポートの仕方のモデルになっている。
- 障害に対するマイナスイメージが強調されないよう、よい点や頑張っている点を示すようにしている。
- 児童生徒間の適切なかわり合いに対して、しっかりと称賛している。
- 児童生徒同士で協力し、助け合うことや、努力を応援する雰囲気をつくるようにしている。

#### 特別な教育的支援を要する児童生徒に関して

- 肯定語を積極的に使い、児童生徒を認め、勇気付け、称賛するよう心がけている。
- 1指示1動作を原則としている。
- 指示は短くはっきりと、落ち着いた口調にしている。
- 好ましくない行動が起こりやすい場面を予測している。
- 好ましくない行動が起こった場面の対応策を事前に考えている。
- 好ましくない行動については、その理由とともに、どうすればよいかをわかりやすく説明している。



## 確認ポイント④ 「わかる」「できる」を実感できる授業づくり

### 全ての児童生徒が「わかる」「できる」を実感できる授業

全ての児童生徒が自分の力を発揮し、認められ、「わかる」「できる」ことを実感できる授業づくりのためには、全ての児童生徒にとって教育の基本となる教科教育の充実に加えて、「障害の特性等を踏まえた一斉指導の工夫」「障害等による困難を軽減するための個別的な支援や配慮」などの特別支援教育の視点を取り入れることが重要です。

#### 障害の特性等を踏まえた一斉指導の工夫（例）

観 点		工 夫 の 例
学 習 過 程	準備	<input type="checkbox"/> 授業を始める前に、机上の整理や準備について確認させるようにしている。 <input type="checkbox"/> 教科書、ノート等を準備するタイミングを明示している。 <input type="checkbox"/> 授業の終了後には、次の授業の準備をさせるようにしている。
	導入	<input type="checkbox"/> 前時の内容を「〇×クイズ」、「フラッシュカード」等で復習している。 <input type="checkbox"/> 最初に活動の流れや到達目標等を板書している。
	展開	<input type="checkbox"/> 目標を達成するための課題を、段階を追って理解できるよう活動を細分化（ユニット化）している。 <input type="checkbox"/> 授業の流れを示した図と色磁石で、今何が行われているか、何をするのかがわかるようにしている。 <input type="checkbox"/> 補充的な学習や発展的な学習を用意するなど、学習活動に選択の幅をもたせている。 <input type="checkbox"/> ノートを書く際に、「着目する→見る→読む→書く」という流れを意識させ、内容を確認させている。 <input type="checkbox"/> 作業的な活動を取り入れている。（ノートをとらせる、アンダーラインを引かせる、数えさせる等） <input type="checkbox"/> 授業の間に1分間の整理整頓の時間を設定している。（事前に予告する。） <input type="checkbox"/> 時計とタイマーを使って、活動時間や終了時間を明確にし、考える時間を確保している。 <input type="checkbox"/> 確かめながら話す、理由と一緒に話す、わかりやすく話す等の発表のルールを示し意識させている。
	まとめ	<input type="checkbox"/> 板書のポイントをさし示し、まとめを音読して確認している。
発 問 指 示 評 価	発問	<input type="checkbox"/> ゆっくり、短い言葉で、具体的に話をしている。（抽象的な言葉を減らす。） <input type="checkbox"/> 指示は教員の顔に注目させてから出し、一文一動作、一文一義となるように心がけている。 <input type="checkbox"/> 指示や発問内容が見える形にする等、視覚的イメージを促す表現を使っている。 <input type="checkbox"/> 語調を変化させている。（ポイントの前には間をおく、要点は繰り返す等）
	指示	<input type="checkbox"/> 肯定的な表現を使うように努め、児童生徒の自尊心に配慮している。 <input type="checkbox"/> 指示を出した後、全員が理解したかどうかを確認して、次の指示を出している。 <input type="checkbox"/> 全体での指示の理解が困難な児童生徒には、活動の前に個別に指示を与えている。
	評価	<input type="checkbox"/> 既習事項等の想起の手がかり（ヒントカード等）を準備し、必要に応じて使っている。 <input type="checkbox"/> 望ましい言動に肯定と称賛の言葉をかけ、何がよかったのかを全員の前で伝えている。 <input type="checkbox"/> 取りかかりに時間を要する児童生徒には、手元の手順カードで課題を確認できるようにしている。
学習形態	<input type="checkbox"/> 学習方法や内容に応じた形態（個人、ペア、グループ、全体）を取り入れている。 <input type="checkbox"/> 児童生徒同士で教え合ったり、助け合ったりする場面を取り入れている。	
教材 教具	<input type="checkbox"/> ワークシート等を工夫し、話し合いに集中できるようにしている。 <input type="checkbox"/> ワークシートは、ノートに貼り付けることができる大きさにしている。 <input type="checkbox"/> 電子黒板やプロジェクタを活用し、視覚的な支援を行っている。	
板 書	<input type="checkbox"/> 「めあて」と「まとめ」を赤で囲み、各時間の学習内容を明確にしている。 <input type="checkbox"/> 記入する内容によって書く場所を使い分けたり、短冊黒板を利用したりしている。 <input type="checkbox"/> 板書や提示教材を、ノートやワークシートと連動させている。 <input type="checkbox"/> ポイントやキーワードは拡大や強調している。 <input type="checkbox"/> 行間は広く、罫線、チョークの色分け等で、ポイントにメリハリをつけている。 <input type="checkbox"/> 文字の大きさや配列を意識し、最後列からも見えやすい板書や掲示にしている。 <input type="checkbox"/> よく使う指示、ポイント、矢印、枠等は、繰り返して使えるようにイラスト（カード）化している。 <input type="checkbox"/> 児童生徒が書く時間を確保している。	
学習環境 他	<input type="checkbox"/> 「相手を意識して発表する」「話している相手の方を見て聞く」などの学習ルールを明確にしている。 <input type="checkbox"/> 教室内に「学習の履歴」コーナーを設け、既習事項の想起や現在の学習との関連付けを図っている。 <input type="checkbox"/> 集中力を高めることのできる座席や人間関係を踏まえた座席を考慮している。 <input type="checkbox"/> 一人ひとりのよさや努力の過程が認められる場の設定に努め、児童生徒の意欲の向上を図っている。	



## 確認ポイント⑤ 授業における個別的な支援の充実

### 障害等による困難を軽減するための個別的な支援や配慮（例）

観点	困 難	支 援 や 配 慮 の 例
聞く	指示を理解することが苦手	<input type="checkbox"/> 指示代名詞は可能な限り使わない。 <input type="checkbox"/> 短く、はっきり、ゆっくり話す。
話す	筋道に沿って話すことが苦手	<input type="checkbox"/> じっくりと話を聞き、話そうとしていることを適切な言葉で言い換える。 <input type="checkbox"/> 「だれが」「いつ」「どこで」「なにを」「どのように」「なぜ」に合わせて話をさせる。
読む	音読が苦手	<input type="checkbox"/> 漢字にふり仮名をつける。 <input type="checkbox"/> 教科書等の文字を拡大する。 <input type="checkbox"/> スリットの入った厚紙を使い、読む行だけが見えるようにする。
	読解が苦手	<input type="checkbox"/> 文書に関係のある絵を準備する。 <input type="checkbox"/> キーワードを <input type="text"/> で囲んだり、段落の関係を図で示したりする。 <input type="checkbox"/> 選択肢を用意し、どれが主題かを選択させる。
書く	書くことが苦手	<input type="checkbox"/> 必要に応じてワークシートを使う。 <input type="checkbox"/> 『親』は、『立って木を見る』など、字を練習する際、覚える方法を工夫する。 <input type="checkbox"/> 漢字の練習では大まかに書けていれば正解にするなど、段階的な到達度を設ける。 <input type="checkbox"/> 場合に応じて、パソコンの利用を認める。
	作文が苦手	<input type="checkbox"/> 作文の下書きやアウトラインメモを用いる。 <input type="checkbox"/> 写真や絵など、作文を書くときの手がかりを用意する。 <input type="checkbox"/> テーマを決めた作文、自由に書く作文など柔軟に設定し、苦手意識を軽減する。
計算する	計算が苦手	<input type="checkbox"/> 一度に取り組みさせる計算問題の量を調整する。 <input type="checkbox"/> 必要に応じて具体物を使う。
推論する	文章題が苦手	<input type="checkbox"/> 解き方の手順を示す。 <input type="checkbox"/> 問題文の中で要点やキーワードに印をつける。 <input type="checkbox"/> 既習事項で、本人が自信をもって答えられるような発問を用意する。
不注意	集中することが苦手	<input type="checkbox"/> 1時間の授業の中で、異なる課題を準備し、困難の状況に応じて柔軟に選択する。 <input type="checkbox"/> 1時間の授業の流れを一定にし、見通しがもてるようにする。
	忘れやすい	<input type="checkbox"/> メモをとるようにさせる。 <input type="checkbox"/> メモやプリントを入れる場所を決める。 <input type="checkbox"/> 持ち物は複数にせず、一つにまとめる。
多動性 衝動性	指示や役割を遂行することが苦手	<input type="checkbox"/> 一度に一つの指示を伝えるようにする。 <input type="checkbox"/> 指示を具体的にするとともに、必要に応じて復唱させてみる。 <input type="checkbox"/> わからないときには、援助や助言を求められるようにする。
	感情的になりやすい	<input type="checkbox"/> 気持ちを受け止め、落ち着くまで待つ。 <input type="checkbox"/> 落ち着いたら一緒に状況を振り返り、どうすべきだったか考えさせる。 <input type="checkbox"/> 気持ちが落ち着く場所を用意する。
対人 関係	グループに入ることが苦手	<input type="checkbox"/> グループでの役割分担を明確にする。 <input type="checkbox"/> サポートしてくれる児童生徒をグループに入れる。 <input type="checkbox"/> 周囲の児童生徒にも理解を求め、援助してもらえるようにする。
	会話を発展させることが苦手	<input type="checkbox"/> 話しかける前や話題をかえる時は、相手に一言確認するように指導する。 <input type="checkbox"/> 自分の興味のある話をするだけでなく、相手の意見を聞くように指導する。 <input type="checkbox"/> 好きな話題を一緒に楽しむ時間をつくる。
	急に不安定になる	<input type="checkbox"/> 急に感情的になったことについては叱責せず、保健室等で静かに休ませる。 <input type="checkbox"/> 落ち着いたと判断できたら、不安定になったきっかけを一緒に振り返る。 <input type="checkbox"/> 本人の気持ちを理解するとともに、周囲の児童生徒の気持ちについて一緒に考え、どうすべきであったのかを話し合う。
	状況に関係のない話をしてしまう	<input type="checkbox"/> 活動の流れと現在の活動が何かを文字や絵で提示し、確認させる。 <input type="checkbox"/> 伝えるときは、できるだけ具体的な言葉で話す。 <input type="checkbox"/> 相手を傷つける発言に対しては後で話を聞き、相手の気持ちを考える機会をもつ。
こだわり	予定変更への対応が苦手	<input type="checkbox"/> 時間を変更する場合は、前日までには伝え、さらに当日の朝、再度説明し確認する。 <input type="checkbox"/> 変更点は口頭だけでなく、視覚的に確認できるようにする。
	特定のことへのこだわりが強い	<input type="checkbox"/> できることを増やし、関心を広げることでこだわりを減らすように努める。 <input type="checkbox"/> してもよい時間や場所などを決め、小さな約束から守るようにさせる。 <input type="checkbox"/> こだわりがよい面に現れることもあるので、長所としてとらえるようにする。



## 確認ポイント⑥ 全校体制で取り組む特別支援教育

### 校内の相談支援の実効性の向上

特別な教育的支援を要する児童生徒は、学校全体で支援することが必要です。ここでは、学校が組織として支援していくためのポイントを示しています。学校における特別支援教育の推進役である管理職や校内コーディネーター等が、本資料を参考に、自校の現状を把握し、改善策を検討していくことで、校内の相談支援を実効性のあるものにしていきましょう。



### 組織支援チェックリスト（例）

項目	内 容 例
組織づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>□管理職のリーダーシップのもと、全教職員が積極的に校内支援体制の一層の充実に取り組んでいる。</li> <li>□教員同士が感じている「困難」を互いに相談し合える場がある。</li> <li>□組織的対応の重要性を全教職員が実感し、協力して支援するという雰囲気がある。</li> <li>□校内委員会が学期に一回は開催されている。</li> <li>□校内のリソースを活用するシステムがあり、そのシステムを全教職員が共通理解している。</li> <li>□校内委員会と事例検討会及び学年会などとの間で双方向的な連絡が取れている。</li> <li>□特別支援教育に関する校内研修会を効果的に実施している。</li> <li>□外部の専門機関等と連携する際の手続きについて、全教職員が共通理解している。</li> </ul>
実態把握	<ul style="list-style-type: none"> <li>□学校全体として、特別な教育的支援を要する児童生徒の実態把握ができています。</li> <li>□児童生徒の課題に関する情報が一か所で止まることなく、校内で共有できている。</li> <li>□児童生徒の課題について、報告に止まることなく、関係者で協議を行う機会がある。</li> <li>□専門性のある教員や支援のための空間、支援のために使える時間等が把握されている。</li> </ul>
計画的な支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>□事例検討会を定期的開催している。</li> <li>□必要に応じて事例検討会を組織する準備をしている。</li> <li>□事例検討会を開催する手続きが決まっている。</li> <li>□事例検討会の前に記録や支援シート等を準備している。</li> <li>□事例検討会や学年会などにおける話し合いに基づいて、教職員の役割が分担されている。</li> <li>□支援を行う教職員同士が、事例検討会や学年会以外の場で、支援内容について連絡を取り合う機会がある。</li> <li>□個別の教育支援計画や個別の指導計画を作成・活用し、引き継いでいる。</li> </ul>
安全・危機管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>□全校体制で危機管理に取り組めるよう、校内委員会に働きかけたり講師を招いて研修を行ったりしている。</li> <li>□興奮したり情緒的に不安定になったりした児童生徒が落ち着ける部屋や場所を決めている。</li> <li>□児童生徒に困難な状況や問題が生じたときの対応を学校として明確にし、必要に応じて訓練を行っている。</li> <li>□児童生徒について、予測される課題や対応などを個別の教育支援計画や指導計画等に記載している。</li> </ul>
保護者の相談体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>□保護者の不安に学校として対応できている。</li> <li>□学校における特別支援教育の取組を、学校通信等を通して、全ての保護者に伝えている。</li> <li>□校内コーディネーターや相談窓口を担当する教職員の名前を、全ての保護者に伝えている。</li> <li>□相談の仕組みが全ての保護者に伝わっており、保護者が安心して相談できる部屋や場所がある。</li> <li>□事例検討会に保護者が参画する機会を確保している。</li> <li>□事例検討会や保護者懇談会以外の場で、支援内容について保護者と話し合う場がある。</li> <li>□保護者の相談に対して検討する機会を設定するとともに、受付や回答の担当者を学校として決めている。</li> </ul>

特別支援教育の推進には、発達障害のある児童生徒の二次的な障害の予防的対応の重要性を全教職員が認識するとともに、問題が生じたときの迅速・適切な対応を共通理解しておくことも重要です。

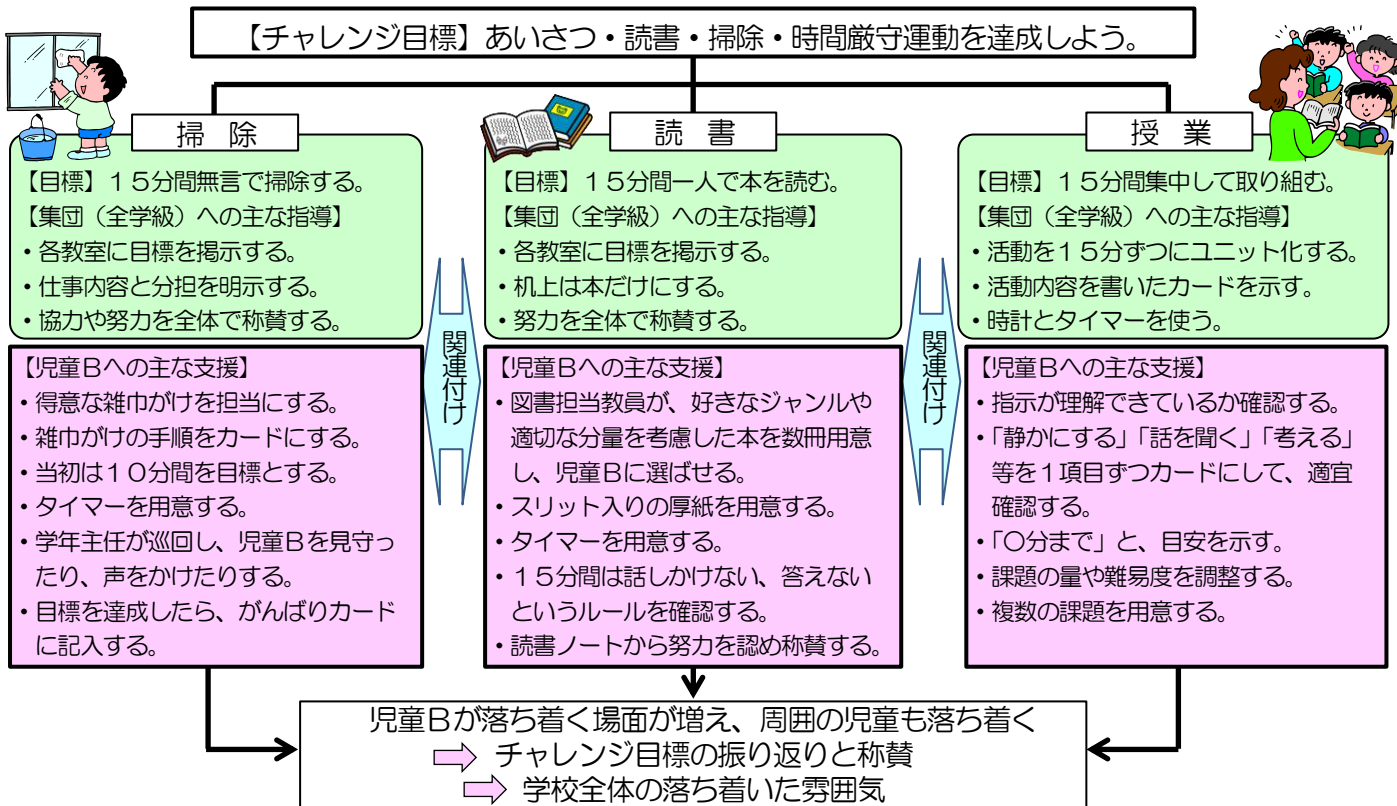
特別な教育的支援を要する児童生徒をはじめ、全ての児童生徒の安全確保に向けた取組を進めるに当たっては、県教委の「問題行動等対応マニュアル」や「よりよい生徒指導に向けて」、文部科学省の「生徒指導提要」が参考になります。

#### 【発達障害と問題行動】文部科学省「生徒指導提要」より抜粋

発達障害の特性が、直接の要因として問題行動につながることはありません。障害の特性により生じる学力や対人関係の問題に対して、失敗やつまづきの経験だけが積み重なることで、ストレスや不安感の高まり、自信や意欲の喪失、自己評価、自尊感情の低下を招き、さらなる適応困難、不登校や引きこもり、反社会的行動等、二次的な問題としての問題行動が生じることがあります。

## 事例① チャレンジ目標を生かした全校体制による支援

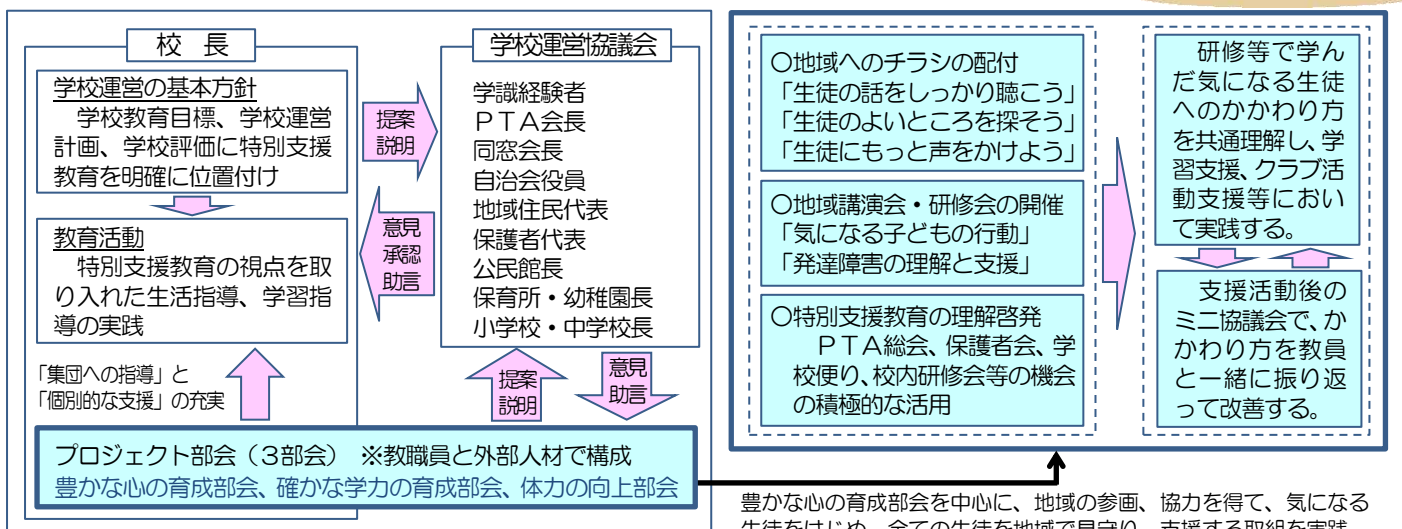
A小学校では、チャレンジ目標に基づき、掃除、朝の読書、授業のそれぞれの場面において教員間が連携し、一貫した支援を行った結果、発達障害のある児童Bも含め、全ての児童が、落ち着いた雰囲気の中で学校生活を送っています。



## 事例② コミュニティ・スクールの充実による保護者や地域が参画した特別支援教育の推進

C中学校では、学校運営協議会において、学校の特別支援教育の取組に対する意見・助言を得るとともに、学校運営協議会の下部組織であるプロジェクト部会において、特別な教育的支援を要する生徒をはじめ、全ての生徒を地域全体で理解し、認め、支援していくための方策を検討、実践しています。

### 【C中学校コミュニティ・スクール】





### 事例③ 学級担任や障害のある児童生徒を組織として支える校内体制の構築

D中学校では、生徒への指導について、担任が日常的に相談できる仕組みをつくり、必要に応じて活用できるようにするとともに、生徒の必要としている教育的支援を4つの段階に分け、段階に応じて教職員が協働することができるようにするなど、担任や生徒を組織として支える校内体制の構築に努めています。

#### <校内の教職員の連携・協力のための仕組み>

- 学年会・・・・・・・・・・・・・・・・ 生徒の学習・生活面での問題を早期に把握し、迅速に対応する。
- 校内委員会・・・・・・・・・・・・・・ 生徒の実態把握や今後の対応について検討する。
- 個別の指導計画の作成検討・・・・・・ 指導上の配慮事項や留意点等を指導者間で共通理解する。
- 個別の教育支援計画の作成検討・・・・ 保護者や関係機関との連携について検討する。
- 校内教育支援委員会（校内就学指導委員会）・・ 支援の在り方やより適切な教育の場を検討し、共通理解する。

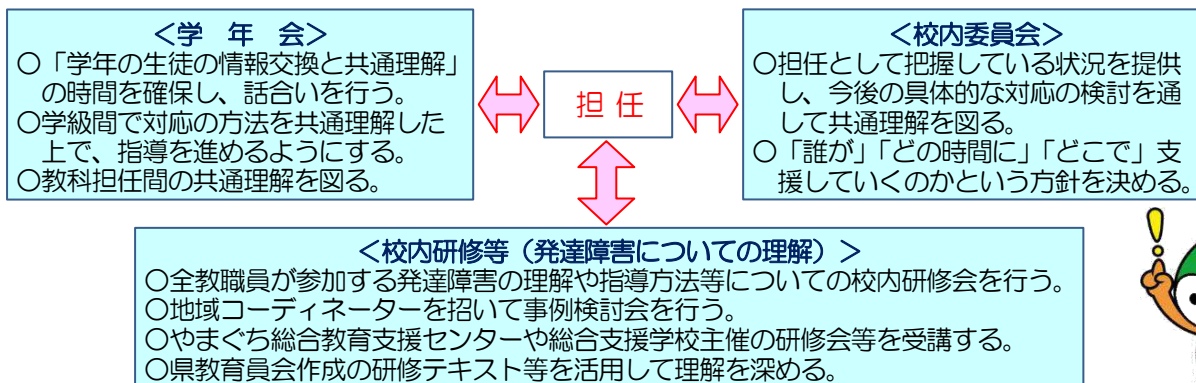
#### <教育的支援の4段階>

- I：学級担任で対応が可能な支援の段階
- II：学級担任だけでなく同学年や近接学年での支援の段階
- III：TT、加配教員や支援員等の協力による支援など、学校全体による支援の段階
- IV：学校だけでの支援は困難であり、関係機関による協力を交えた支援の段階



- ・担任は、現在の指導方針や支援方法に迷いを抱いたり、指導に困難を感じたりすることもあります。
- ・学年会や校内委員会を、担任の不安を取り除く場としても活用しましょう。
- ・そのためには、悩みを率直に話せる校内の雰囲気重要です。
- ・担任が直接、指導上の悩み等を特別支援教育センター、ふれあい教育センター等に相談することもできます。
- ・併せて、身近な教職員にも相談し、校内で話し合い、解決に向けて協働していくことが大切です。
- ・必要に応じて、外部の専門家に協力を依頼することも検討しましょう。

#### 【学級担任を支えるD中学校の校内体制】



○県教育委員会では、発達障害等の理解や支援に関する研修テキスト等を作成しています。

<<http://www.pref.yamaguchi.lg.jp/cms/a503001/induction/text.html>>

○総合支援学校では、小・中学校等の教員の実践的指導力の向上を支援するため、地域の学校を対象とした研修会や実地研修等を実施しています。詳細は各総合支援学校にお尋ねください。

#### 【県教育委員会作成テキスト等（特別支援教育関係）】

資料の名称	目的・内容等
支援をつなぐ（理論編）	発達障害の理解、発達障害の早期発見と校内体制整備のためのテキスト
支援をつなぐ（実践編）	発達障害についての教員の指導力向上と校内体制充実のためのテキスト
支援をつなぐ（研修編）	特別支援教育の校内研修の充実と校内体制の機能強化のためのテキスト
「個別の教育支援計画」Q&A及び記入例	「個別の教育支援計画」作成の手引
特別支援教育における「個別の指導計画」作成のために	「個別の指導計画」作成の手引
特別支援教育における「個別の指導計画」作成のために—記入例—	各学校において実際に「個別の指導計画」を作成する際の参考資料
高等学校等における特別支援教育	高等学校段階を考慮した発達障害等の理解と支援を学ぶためのテキスト
中学生・高校生のための相談支援ガイド	中学生・高校生に学校生活や進路・就職等の相談機関を紹介するリーフレット
特別支援学校 新着任用研修テキスト	特別支援教育の基礎的知識の習得と実践的指導力向上のためのテキスト

# 計画をもって授業に臨んでいますか

－板書型指導案活用のすすめ－

山口県教育庁義務教育課

## 授業計画の必要性

児童生徒に確かな学力を保障するために、授業の内容と方法を明確にし、見通しをもって、日々の授業に臨むことが大切です。そのために作成するものが「指導案」です。指導案には授業研究会などで用いられるもの、日常の授業で準備されるものなど様々ですが、

- ① 何を、どう学ばせるのか → 本時の目標（主眼）
- ② 何を、どう考えさせるのか → 展開・発問
- ③ 何を、どうまとめていくのか → 板書

の3点は、必ず計画しておく必要があります。

特に、③の板書を計画することで、めあてや予想される子どもの反応、まとめなどを整理し、授業の流れをイメージすることができます。

## 板書型指導案とは

日々の授業計画の方法の一つに、「板書型指導案」があります。この「板書型指導案」は、授業での板書計画を中心に、実施する授業の見通しを明確にしたものです。

### <板書型指導案の例>

「

令和 年 月 日 ( )

指導者

<p>1 主眼</p> <p><b>【①主眼】</b> 「〇〇する活動を通して、〇〇が理解できる」のように活動と学習内容をセットにして、本時の授業の核心を、子どもの姿で書き記します。</p>	<p><b>【③板書】</b> 「板書型指導案」の最も必要な要素である板書計画を書きます。授業の「めあて」や「まとめ」、構想している授業展開、予想される児童生徒の意見などを、構造的に、明確に表すようにします。</p>
<p>2 指導上の留意点</p> <p>3 評価</p> <p><b>【その他の項目】</b> 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの指導上の留意点や評価など、必要な項目を書き出して、授業でできたかを振り返りましょう。</p>	<p><b>【②展開・発問】</b> 一斉指導、ペアワークやグループワークなど学習形態の工夫や、子どもの学習活動を促す指示や思考を深める発問を書きます。また、予想される子どもの反応やそれに対する手立てを整理しておくことで、授業展開を明確にしておきます。</p> <p style="text-align: right;">本時の流れ</p>

## 板書型指導案の活用

キーワードは「**日常化**」と「**継続**」です！

板書型指導案を活用して、毎日の授業改善を進めましょう！

○指導案を日常的に作成し修正することで、授業づくりのスキルを高めましょう  
特別な授業のときだけ指導案を作成するのではなく、日常的に作成しましょう。その成果は以下のとおりです。

- ① 毎時間のぶれない授業づくり、つながりのある授業づくりができます。
- ② 授業中の子どもの発言や反応、授業後の反省を書き込むことで授業記録として活用し、授業を振り返る力を付けることができます。
- ③ 教材分析、子どもとの関わり方などを見直し、授業を修正することで、授業のスキルアップに結び付けることができます。

○形式は使いやすいもので構いません

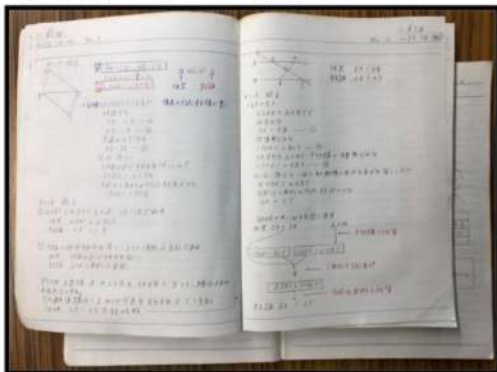
板書型指導案に決まった形式はありません。自分が一番使いやすい形で続けましょう。また、作成について、パソコン作成が苦手な方はノートを利用するなど、工夫してみましょう。【図1】

○指導に応じて進化させていきましょう

授業の形態に応じて形式を進化させましょう。例えば、複式学級では、枠を2つに分けて、それぞれの学年の学習展開と、指導者の「わたり」についてまとめることで、指導者の動きを明確にすることができます。【図2】

また、技能教科においても活用できます。例えば、体育の陸上競技の授業では、グラウンドを真上から見た図をかいて、子どもや指導者の立ち位置や動きを整理したり、活動中の指示や大切な用語の提示などについてまとめたりして、授業の流れを確認することができます。

【図1】 ノートの活用例



【図2】 複式学級での活用例

第1学年「くじらぐも」		第2学年「お半紙」		令和 年 月 日 ( )	指導者
<p>【第1学年】</p> <p>○本時の目標（説明） 「くじらぐもと子どもたちのどちらか一緒に遊びたかったか」について話し合う活動を通して、物語の構成や登場人物の言動に頼りながら作品を読み探めることができる。</p> <p>■評価 自分の意見を持ちろんと説明するとともに、相手の意見をしっかりと聞くことができたか。</p>	<p>1年</p> <p>1.話し リーダー中心 2.中心活動 - 登場人物の て考えを述べ よう。 - 子どもが意 見を持ちろん から物書き ■評価</p>	<p>2年</p> <p>1.話し 2.物書き 3.物書き 4.物書き</p>	<p>今日の リーダーさん</p> <p>○本時の目標 - 登場人物の 言動に頼りな がら作品を読み 探めること ができる。</p> <p>○本時の目標 - 登場人物の 言動に頼りな がら作品を読み 探めること ができる。</p>	<p>今日の リーダーさん</p> <p>○本時の目標 - 登場人物の 言動に頼りな がら作品を読み 探めること ができる。</p>	<p>指導者</p> <p>○本時の目標 - 登場人物の 言動に頼りな がら作品を読み 探めること ができる。</p>

○「授業をひらく」ために活用しましょう

授業力を付けるためには、よい授業をたくさん見る、自身の授業を多くの先生に見てもらおうといった「授業をひらく」ことが一番の近道です。そして、協議を通して多くのアイディアを得るために、板書型指導案を活用しましょう。

「人物の気持ちを考えながら読もう ～サーカスのライオン～」(〇年〇組)

平成 年 月 日 ( )  
指導者

1 主眼

物語のクライマックスを探ることを通して、じんごの様子や行動、言葉を手がかりに、火事の中に飛び込み男の子を救ったじんごの心情変化を読み取ることができる。

2 指導上の留意点

①話が最も盛り上がるクライマックスは、主人公の心情が最も変化する叙述であることを知らせ、各自が選んだ物語のクライマックスとその根拠について話し合うことができるようにする。

②じんごの考え方や行動を変えたものは何かについて考えることで、人物同士の関係性にも着目できるようにする。

③様子や行動、会話文に着目すれば人物の心情を想像できるように、板書を工夫する。

評価

行動や様子、言葉からじんごの心情の変化を読み取り、言葉や文章で表現している。

<p>サーカスのライオン 川村 たかし</p>	<p>物語のクライマックスをさがそう</p>	<p>クライマックスとは？ 主人公（じんご）の気持ちや行動が一番大きく変わるところ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それを聞いたライオンのじんごは、ぼつと火の中へとびこんだ。</li> <li>・「なあに。わしは火にはなれていきますのじゃ。」</li> <li>・じんごは力のかぎりほえた。</li> <li>・ウオーツ</li> <li>・金色に光るライオンは、空を走り、たちまち暗やみの中に消え去った。</li> </ul>
<p>行動(したこと) 様子(たいど) 言葉(会話)</p>		<p>↓</p>	
<p>じんごの気持ちや行動をかえたものは？ 男の子と友だちになったこと 男の子の思いやり 男の子を守りたい気持ち</p>		<p>人物(じんご)の気持ちが分かる</p>	
<p>男の子を助けたと思う気持ち</p>		<p>自分のことよりも男の子が大事 思いをとどけたい できるだけ力 命がなくなって、天にのぼってしまった</p>	

◆ピア学習の後で、全体での話し合いを組織することにより、話し合いに参加できるようにする。また、行動、様子、言葉から人物の心情が想像できることを押さえる。

◆主人公がじんごであることを押さえた上で、クライマックスの文を抜き出し、その理由を考えさせるようにする。

◆人物のかかわりに着目させることで、物語の主題に迫らせたい。

① 本時の流れ  
④ 四場面を音読し、物語のクライマックスをさがす。

② 物語のクライマックスを選んだ理由について、話し合う。

③ じんごの気持ちや行動を大きく変化した原因について話し合う。

① 選んだ言葉とその理由を、隣の友達と聞き合おう。

② じんごの行動や気持ちを変えたものは何か。

## ○ICTの活用場面を含んだ板書型指導案

・授業の中でICTを活用する際は、多様な機能とその長所を理解した上で、授業のねらいや学習活動の内容に応じて機能や活動場面を選択する必要があります。どのような場面でどのような目的で使用するかを、指導案に整理しておきましょう。

板書型指導案															
「 _____ 」		令和 ____ 年 ____ 月 ____ 日 ( ) _____ 校時													
<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%; padding: 2px;">単元</td> <td style="padding: 2px;">○○○○○○</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">主眼</td> <td style="padding: 2px;">○○○○○○○○○○</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">評価</td> <td style="padding: 2px;">○○○○○○○○○○</td> </tr> </table> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;">&lt;主眼等を書きます。&gt; 何をどう学ばせるのか、授業を通してどのような力をつけるのかなど、本時の授業の核心を、子どもの姿で表します。</p> </div>	単元	○○○○○○	主眼	○○○○○○○○○○	評価	○○○○○○○○○○	<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; padding: 5px; vertical-align: top;"> <p style="text-align: center;"><b>【板書等】</b></p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 10px; margin: 10px auto; width: 80%;"> <p style="text-align: center;">&lt;板書計画を書きます。&gt; 授業の「めあて」や「まとめ」など、構想している授業において、黒板に書く内容を、構造的に明確に表すようにします。</p> </div> </td> <td style="width: 50%; padding: 5px; vertical-align: top;"> <p style="text-align: center;"><b>【ICT画面等】</b></p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 10px; margin: 10px auto; width: 80%; background-color: #f0f0f0;"> <p style="text-align: center;">&lt;ICT画面に表示される内容を書きます。&gt; 一斉指導や個別学習等において、ICT画面に表示される内容のうち、学習内容や学習課題など授業展開に大きく関係するものについて表します。</p> </div> </td> </tr> </table>			<p style="text-align: center;"><b>【板書等】</b></p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 10px; margin: 10px auto; width: 80%;"> <p style="text-align: center;">&lt;板書計画を書きます。&gt; 授業の「めあて」や「まとめ」など、構想している授業において、黒板に書く内容を、構造的に明確に表すようにします。</p> </div>	<p style="text-align: center;"><b>【ICT画面等】</b></p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 10px; margin: 10px auto; width: 80%; background-color: #f0f0f0;"> <p style="text-align: center;">&lt;ICT画面に表示される内容を書きます。&gt; 一斉指導や個別学習等において、ICT画面に表示される内容のうち、学習内容や学習課題など授業展開に大きく関係するものについて表します。</p> </div>				
単元	○○○○○○														
主眼	○○○○○○○○○○														
評価	○○○○○○○○○○														
<p style="text-align: center;"><b>【板書等】</b></p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 10px; margin: 10px auto; width: 80%;"> <p style="text-align: center;">&lt;板書計画を書きます。&gt; 授業の「めあて」や「まとめ」など、構想している授業において、黒板に書く内容を、構造的に明確に表すようにします。</p> </div>	<p style="text-align: center;"><b>【ICT画面等】</b></p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 10px; margin: 10px auto; width: 80%; background-color: #f0f0f0;"> <p style="text-align: center;">&lt;ICT画面に表示される内容を書きます。&gt; 一斉指導や個別学習等において、ICT画面に表示される内容のうち、学習内容や学習課題など授業展開に大きく関係するものについて表します。</p> </div>														
<p style="text-align: center;"><b>【主体的・対話的で深い学びを実現するICT活用のポイント】</b></p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 10px; margin-top: 10px; background-color: #f0f0f0;"> <p style="text-align: center;">&lt;ICT活用のポイントを書きます。&gt; 一斉学習【A】個別学習【B】協働学習【C】について、どのような場面で、どのように活用するか、またICT活用のポイントを記載します。</p> <p>*記入例 ・個別学習【B】で、～するために～を共有する。</p> </div>	<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 25%; text-align: center; background-color: #e0f0ff;">学習のきっかけ</td> <td style="width: 25%; text-align: center; background-color: #e0f0ff;">解決</td> <td style="width: 25%; text-align: center; background-color: #e0f0ff;">共有</td> <td style="width: 25%; text-align: center; background-color: #e0f0ff;">振り返り</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px; vertical-align: top;">○学習活動</td> <td colspan="3" style="padding: 5px; vertical-align: top;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 10px; margin: 10px auto; width: 90%; background-color: #f0f0f0;"> <p style="text-align: center;">&lt;学習活動とICTの活用場面を書きます。&gt; 活用場面を、一斉学習【A1】個別学習【B1～B5】協働学習【C1～C4】に細分化し、活用方法を記載します。(※下段参照)</p> </div> </td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px; vertical-align: top;">◆留意点</td> <td colspan="3" style="padding: 5px; vertical-align: top;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 10px; margin: 10px auto; width: 90%;"> <p style="text-align: center;">&lt;指導上の留意点や指示などを書きます。&gt; 学習活動に対する留意点や指示、ポイントなどを記載します。</p> </div> </td> </tr> </table>			学習のきっかけ	解決	共有	振り返り	○学習活動	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 10px; margin: 10px auto; width: 90%; background-color: #f0f0f0;"> <p style="text-align: center;">&lt;学習活動とICTの活用場面を書きます。&gt; 活用場面を、一斉学習【A1】個別学習【B1～B5】協働学習【C1～C4】に細分化し、活用方法を記載します。(※下段参照)</p> </div>			◆留意点	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 10px; margin: 10px auto; width: 90%;"> <p style="text-align: center;">&lt;指導上の留意点や指示などを書きます。&gt; 学習活動に対する留意点や指示、ポイントなどを記載します。</p> </div>		
学習のきっかけ	解決	共有	振り返り												
○学習活動	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 10px; margin: 10px auto; width: 90%; background-color: #f0f0f0;"> <p style="text-align: center;">&lt;学習活動とICTの活用場面を書きます。&gt; 活用場面を、一斉学習【A1】個別学習【B1～B5】協働学習【C1～C4】に細分化し、活用方法を記載します。(※下段参照)</p> </div>														
◆留意点	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 10px; margin: 10px auto; width: 90%;"> <p style="text-align: center;">&lt;指導上の留意点や指示などを書きます。&gt; 学習活動に対する留意点や指示、ポイントなどを記載します。</p> </div>														

※ **ICTを効果的に活用した学習場面の分類例**

一斉学習	【A1】教員による教材の提示	【B2】調査活動	【B3】思考を深める学習
個別学習	【B1】個に応じた学習	【B4】表現・制作	【B5】家庭学習
協働学習	【C1】発表や話し合い	【C2】協働での意見整理	【C3】協働制作
		【C4】学校との壁を超えた学習	